

数量公開用図書

工事名称 柏小学校校舎ボイラー改修工事

工事場所 帯広市東8条南11丁目1番地

※注意事項

本設計書は参考数量として取り扱い、数量の相違については、各々の判断で入札価格に反映させてください。

設計説明書

1. 施工理由 本工事は、柏小学校校舎ボイラー改修工事を行うものです。
2. 工期 令和6年12月2日まで
3. 仕様書 別紙「特記仕様書」による。

設計概要書

工事名 柏小学校校舎ボイラー改修工事
施工位置 帯広市東8条南11丁目1番地

1. 構造・規模 鉄筋コンクリート造 3階建て
延床面積 5,990.5 m²
2. 工事概要 機械設備工事
3. 別途工事 有り（柏小学校校舎屋根改修工事）
4. 工事内容 校舎棟機械室 真空温水機 N=2基改修(油焚→ガス焚)
屋外ガス引込管新設 屋外重油タンク撤去 その他付帯工事

機械設備工事 中科目別内訳

【校舎】					
科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
機器設備	暖房機器	1	式		
機器設備	換気機器	1	式		
機器設備	配管設備	1	式		
機器設備	弁類	1	式		
機器設備	直接仮設	1	式		
計					
ガス設備	配管設備	1	式		
計					
動力設備	盤関係	1	式		
動力設備	動力設備	1	式		
計					
自動制御設備	盤関係	1	式		
自動制御設備	計装工事	1	式		
計					
電気設備	電灯設備	1	式		
電気設備	自火報設備	1	式		
電気設備	拡声設備	1	式		
電気設備	電気工事	1	式		
計					
内装	間仕切り壁	1	式		

機械設備工事 細目別内訳

【校舎】		機器設備		配管設備		
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
【温水管】						
温水・配管用 炭素鋼鋼管(黒) 改修	ねじ接合 機械室・便所 65A	6.	機改 m			
温水・配管用 炭素鋼鋼管(黒) 改修	ねじ接合 機械室・便所 32A	4.	機改 m			
温水・配管用 炭素鋼鋼管(黒) 改修	ねじ接合 機械室・便所 20A	8.	機改 m			
【給湯管】						
給湯・耐熱性硬質 塩ビライニング鋼管 (管端防食)改修	ねじ接合 機械室・便所 65A	2.	機改 m			
給湯・耐熱性硬質 塩ビライニング鋼管 (管端防食)改修	ねじ接合 機械室・便所 50A	2.	機改 m			
給湯・耐熱性硬質 塩ビライニング鋼管 (管端防食)改修	ねじ接合 機械室・便所 20A	2.	機改 m			
【排水管】						
排水・配管用 炭素鋼鋼管(白) 改修	ねじ接合 機械室・便所 50A	6.	機改 m			
排水・配管用 炭素鋼鋼管(白) 改修	ねじ接合 機械室・便所 20A	4.	機改 m			
間接排水口	150×50	1	機改 式			別紙 00-0002
【給水管】						
冷温水・圧力配管 用炭素鋼鋼管(白) 改修	ねじ接合 機械室・便所 20A	2.4	機改 m			
給水栓	自在水栓	1	機改 式			別紙 00-0003
不凍水栓	20A	1	機改 式			別紙 00-0004
【ガス管】						
ガス・配管用 炭素鋼鋼管(白) 改修	ねじ接合 機械室・便所 80A	24.	機改 m			
ガス・配管用 炭素鋼鋼管(白) 改修	ねじ接合 機械室・便所 50A	4.	機改 m			
ガスポリエチレン 被覆鋼管 改修	80A	1.	機改 m			

機械設備工事 細目別内訳

【校舎】		機器設備		配管設備		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
ガス栓取付(特殊)	50A ホールバルブ	2.	機改 か所			
ガス栓取付(特殊)	80A ホールバルブ	3.	機改 か所			
フレキシブルチューブ	50A×300L 10KF	2.	機改 本			
支持金物	天吊	1	機改 式			別紙 00-0005
ガスメーター取付費	N65～N120 供給会社貸与品	1.	機改 個			
ガスメーター架台		1.	機改 個			
ガス配管機器接続 工事		2.	機改 台			
【保温】						
温水管 保温	クラスワール 機械室, 書庫, 倉庫 アルミガラスクロス 65A	6.	機改 m			
温水管 保温	クラスワール 機械室, 書庫, 倉庫 アルミガラスクロス 32A	4.	機改 m			
温水管 保温	クラスワール 機械室, 書庫, 倉庫 アルミガラスクロス 20A	8.	機改 m			
給湯管 保温	クラスワール 機械室, 書庫, 倉庫 アルミガラスクロス 65A	2.	機改 m			
給湯管 保温	クラスワール 機械室, 書庫, 倉庫 アルミガラスクロス 50A	2.	機改 m			
給湯管 保温	クラスワール 機械室, 書庫, 倉庫 アルミガラスクロス 20A	2.	機改 m			
【塗装】						
配管用 炭素鋼鋼 管(黒) 塗装(水 性系)	保温される裸管・さび止めP 65A	8.	機改 m			
配管用 炭素鋼鋼 管(黒) 塗装(水 性系)	保温される裸管・さび止めP 50A	2.	機改 m			
配管用 炭素鋼鋼 管(黒) 塗装(水 性系)	保温される裸管・さび止めP 32A	4.	機改 m			
配管用 炭素鋼鋼 管(黒) 塗装(水 性系)	保温される裸管・さび止めP 20A	10.	機改 m			
配管用 炭素鋼鋼 管(白) 塗装(水 性系)	露出・調べイント 50A	10.	機改 m			

機械設備工事 細目別内訳

【校舎】		機器設備		配管設備		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管用 炭素鋼鋼管 (白) 塗装 (水性系)	露出・調合パイプ 20A	2.	機改 m			
【調整】						
配管系統 調整	温水	18.	機改 m			
配管系統 調整	給湯	6.	機改 m			
配管系統 調整	給水	2.4	機改 m			
【煙道】						
丸型煙道 (直管)	直管 300φ 3.2t 500L	1.	機改 m			
排煙ダクト保温 (円形ダクト)	ロックール 屋内隠ぺいきつ甲金網 350mm 保温厚25	0.5	機改 m			
煙道 断熱	カー重鉛鉄板	0.5	機改 ㎡			
【はつり】						
機械はつり (ガスケットカッターによる配管用貫通口)	100~150mm 50mm	4.	機改 か所			
機械はつり (ガスケットカッターによる配管用貫通口)	350mm程度 100mm	4.	機改 か所			
機械はつり (ガスケットカッターによる配管用貫通口)	350mm程度 125mm	4.	機改 か所			
【塞ぎ】						
貫通部モルタル塞ぎ	25φ×150L	6.	機改 か所			
貫通部モルタル塞ぎ	25φ×200L	2.	機改 か所			
貫通部モルタル塞ぎ	32φ×120L	1.	機改 か所			
貫通部モルタル塞ぎ	40φ×120L	2.	機改 か所			
貫通部モルタル塞ぎ	65φ×120L	2.	機改 か所			
計						

機械設備工事 細目別内訳

【校舎】		ガス設備		配管設備		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
PLP鋼管(立ち上がり)	80A	1.	機改 m			
PEP管(地中埋設)	100A	74.	機改 m			
PEP管(地中埋設)	75A	2.	機改 m			
ホーディングワイヤー		76.	機改 m			
EFソケット	75A	2.	機改 個			
EFソケット	100A	13.	機改 個			
EFエルボ 90°	100A	5.	機改 個			
EF-RS	100×75	1.	機改 個			
EF-RT	100×75	1.	機改 個			
EFキャップ	75A	1.	機改 個			
溶接型トランジション継手(ガス用ホリエレン管連絡継手)	75A	1.	機改 個			
仕切弁(ガス用)	100A	1.	機改 個			
仕切弁(ガス用)	75A	1.	機改 個			
仕切弁筐(ガス用)	弁筐(大)、台石(弁筐がロック大)	2.	機改 組			
保温工事t=25mm	100A	1.	機改 m			
屋外取出工事	100A	1.	機改 か所			
保温筒	75A(PLP管)	1.	機改 m			
溶接費	80A	1.	機改 か所			
埋設標識シート	2倍長(W)150	76.	機改 m			
P-Tube	75~100A	76.	機改 m			

機械設備工事 細目別内訳

【校舎】		ガス設備	配管設備			
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
防食塗装費		1	機改式			
導入表示板	黄銅製	1.	機改枚			
地中埋設標	コンクリート製	5.	機改個			
雑工事費		1	機改式			
【土工】						
管路掘削	機械掘削・積込 0.13m3級オープン	65.1	機改m3			
管路埋戻し	機械掘削・積込 0.13m3級クハ	57.	機改m3			
アスファルト舗装	A-5-10 細粒 クラッシュラン 500㎡未満	25.	機改㎡			
下層路盤	t=0.30 0～40mm 路盤材込	25.	機改㎡			
舗装切断工	t=15cm以下	62.4	機改m			
舗装取壊し	機械～10cm以下破碎のみ	25.	機改㎡			
区画線設置工	駐車枠線(実線)ほか 溶融式・手動 実線、白色W=15cm	10.	機改m			
縁石撤去復旧工		1	機改式			別紙 00-0006
土工機械運搬 (ハックホ)	排ガス対策型 油圧式クローラ型0.13m3	1.	機改往復			
芝張り	野芝 目地張り -	34.2	機改㎡			
計						

機械設備工事 細目別内訳

【校舎】		自動制御設備	計装工事			
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
ねじなし電線管 (E)	露出配管 19mm	6.3	機改 m			
ねじなし電線管 (E)	露出配管 25mm	12.	機改 m			
金属製可とう電線 管(電動機等接続)	17mm ビニル被覆無	6.	機改 か所			
金属製可とう電線 管(電動機等接続)	24mm ビニル被覆無	2.	機改 か所			
丸形露出ボックス	19(E19, 16) 1方出	1.	機改 個			
600V耐燃性ポリエチレン 絶縁電線 (EM-IE)	2.0mm	3.9	機改 m			
EM-AEケーブル	0.9 mm- 2C 管内	3.	機改 m			
EM-AEケーブル	0.9 mm- 2C ビット・天井	12.9	機改 m			
EM-ECTFケーブル	0.75mm- 4C 管内	3.	機改 m			
EM-ECTFケーブル	0.75mm- 4C ビット・天井	11.4	機改 m			
緊急遮断弁 操作器	取付費	1.	機改 個			
緊急遮断弁 操作器	結線	1.	機改 個			
緊急遮断弁	結線	1.	機改 個			
ガス警報器	結線	1.	機改 個			
ボイラ-信号線	離線	2.	機改 か所			
ボイラ-信号線	結線	2.	機改 か所			
計						

機械設備工事 細目別内訳

【校舎】		内装		間仕切り壁		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
内装足場		1	機改式			別紙 00-0012
壁 軽量鉄骨仕切壁下地	90型@303	22.	機改 m ²			
壁 軽鉄間仕切壁開口補強	90*45*20	9.	機改 m			
壁 石膏ボード張り	t12.5 素地	43.	機改 m ²			
壁 天端塩ビ見切り縁		7.	機改 m			
壁 床取合いシーリング		11.	機改 m			
壁 ビニル巾木		11.	機改 m			
天井 インサート		50.	機改 か所			
天井 軽鉄天井下地		11.	機改 m ²			
天井 軽鉄天井補強	450*450	1.	機改 か所			
天井 石膏ボード張り	t12.5 素地	11.	機改 m ²			
天井 塩ビ見切り縁	90型@303	13.	機改 m			
天井点検口取付		1.	機改 か所			
軽量鉄骨天井 開口部補強	19形(屋内) 450×450mm程度 ボード等切込み共	1.	機改 か所			
SD-1 鋼製建具ドア	930*2000 SUS沓摺 レバー付/錠DC戸当り	1	機改式			別紙 00-0013
計						

機械設備工事 細目別内訳

【校舎】		撤去		温水・給湯設備		
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
LP-1 温水循環ポンプ撤去	再使用しない 80φ 1.5kw	1.	機改 台			
LP-2 温水循環ポンプ撤去	再使用しない 50φ 0.75kw	1.	機改 台			
LP-3 温水循環ポンプ撤去	再使用しない 40φ 0.4kw	1.	機改 台			
LP-4 温水循環ポンプ撤去	再使用しない 32φ 0.25kw	1.	機改 台			
LP-5 給湯循環ポンプ撤去	再使用しない 32φ 0.25kw	1.	機改 台			
温水管 鋼管(ねじ り接合)(機械室、 便所)撤去	再使用しない 機械室、便所 65A	31.9	機改 m			
温水管 鋼管(ねじ り接合)(機械室、 便所)撤去	再使用しない 機械室、便所 32A	4.	機改 m			
温水管 鋼管(ねじ り接合)(機械室、 便所)撤去	再使用しない 機械室、便所 20A	8.	機改 m			
給湯管 鋼管(ねじ り接合)(機械室、 便所)撤去	再使用しない 機械室、便所 65A	2.	機改 m			
給湯管 鋼管(ねじ り接合)(機械室、 便所)撤去	再使用しない 機械室、便所 50A	2.	機改 m			
給湯管 鋼管(ねじ り接合)(機械室、 便所)撤去	再使用しない 機械室、便所 20A	2.	機改 m			
排水管 鋼管(ねじ り接合)(機械室、 便所)撤去	再使用しない 機械室、便所 50A	6.	機改 m			
排水管 鋼管(ねじ り接合)(機械室、 便所)撤去	再使用しない 機械室、便所 20A	4.	機改 m			
保温材 撤去	機械室 露出 GW 65A	8.	機改 m			
保温材 撤去	機械室 露出 GW 50A	2.	機改 m			
保温材 撤去	機械室 露出 GW 32A	4.	機改 m			
保温材 撤去	機械室 露出 GW 20A	10.	機改 m			
計						

機械設備工事 細目別内訳

【校舎】		撤去		給油設備		
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
OT-1 地下オイルタンク撤去	鋼板製一体型タンク 10,000L	1.	機改 基			
オイルタンクふた撤去	φ600 再使用しない	2.	機改 組			
漏えい検知金物撤去	再使用しない	4.	機改 組			
OST-1 オイルサービスタンク撤去	450L 再使用しない	1.	機改 基			
OP-1 重油移送ポンプ撤去	0.75kw 再使用しない	2.	機改 台			
ポンプ基礎とり こわし	RC造 地上部 圧砕機 標準	0.1	機改 m3			
防油掘とりこわし	RC造 地上部 圧砕機 標準	0.4	機改 m3			
床コンクリート直均し 仕上げ(機械基礎 撤去面補修)	金ごて 直均し仕上げ	2.4	機改 ㎡			
地下オイルタンク洗浄費 (中和剤含)	10KLまで	1	機改 式			
オイルサービスタンク洗浄 費 (中和剤含)	1KLまで	1	機改 式			
A重油移送	大型ローリー使用	1	機改 式			
高压吸引車	ホッパー付き	1	機改 式			
廃油処理費	中和剤混入	1	機改 式			
中和剤	中和剤混入	40.	機改 kg			
注油口撤去	65A 再使用しない	1.	機改 組			
給油管 鋼管(ね じ接合)(機械室 、便所)撤去	再使用しない 機械室、便所 65A	8.6	機改 m			
給油管 鋼管(ね じ接合)(機械室 、便所)撤去	再使用しない 機械室、便所 25A	31.9	機改 m			
返油管 鋼管(ね じ接合)(機械室 、便所)撤去	再使用しない 機械室、便所 40A	16.4	機改 m			
油配管洗浄費(中 和剤含)(給油管)	65A	8.6	機改 m			
油配管洗浄費(中 和剤含)(給油管)	25A	31.9	機改 m			

機械設備工事 細目別内訳

【校舎】		発生材	産業廃棄物			
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
廃プラ 積込み	機 械	0.5	機改 m3			
保温材 積込み	機 械	0.2	機改 m3			
鉄筋コンクリート 集積、積込み	機 械	15.3	機改 m3			
無筋コンクリート類 集積、積込み	機 械	0.6	機改 m3			
アスファルト塊 集積、積込み	機 械	0.8	機改 m3			
とりこわし 発生材運搬	ダンプトラック 4t積級 バックホ0.28m3 廃プラ DID区間有り 5.5km以下	0.5	機改 m3			山口重機㈱
とりこわし 発生材運搬	ダンプトラック 4t積級 バックホ0.28m3 保温材 DID区間有り 5.5km以下	0.2	機改 m3			山口重機㈱
とりこわし 発生材運搬	ダンプトラック 4t積級 バックホ0.28m3 鉄筋コンクリート DID区間有り 7.0km以下	15.3	機改 m3			㈱岩佐
とりこわし 発生材運搬	ダンプトラック 4t積級 バックホ0.28m3 無筋コンクリート類 DID区間有り 7.0km以下	0.6	機改 m3			㈱岩佐
とりこわし 発生材運搬	ダンプトラック 4t積級 バックホ0.28m3 アスファルト塊 DID区間有り 7.0km以下	0.8	機改 m3			㈱岩佐
産業廃棄物処理	廃プラ 循環税相当額含む	0.1	機率 t			山口重機㈱
産業廃棄物処理	保温材 循環税相当額含む	0.1	機率 t			山口重機㈱
産業廃棄物処理	コンクリート(鉄筋)	37.5	機率 t			㈱岩佐
産業廃棄物処理	コンクリート(無筋)	4.5	機率 t			㈱岩佐
産業廃棄物処理	アスファルト塊	3.5	機率 t			㈱岩佐
蛍光管処理費	50kg未満	1	機率 式			
計						

柏小学校校舎ボイラー改修工事

特記仕様書

令和 6 年 4 月

帯広市都市環境部都市建築室住宅営繕課

● 共通事項特記仕様書

- I 工事概要及び範囲
- II 各工事

● 第1章 一般共通事項

● 機械設備工事特記仕様書

- 工事概要
- 機械設備共通事項
- 空気調和設備
- 暖房設備
- 冷房設備
- 換気設備
- 排煙設備
- 給油設備
- 自動制御設備
- 給水設備
- 排水設備
- 給湯設備
- 衛生器具
- 消火設備
- ガス設備
- 厨房機器
- 環境配慮改修工事
- その他

● 新営工事特記仕様書

- 第2章 仮設工事
- 第3章 土工事
- 第4章 地業工事
- 第5章 鉄筋工事
- 第6章 コンクリート工事
- 第7章 鉄骨工事
- 第8章 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事
- 第9章 防水工事
- 第10章 石工事
- 第11章 タイル工事
- 第12章 木工事
- 第13章 屋根工事及びとい工事
- 第14章 金属工事
- 第15章 左官工事
- 第16章 建具工事
- 第17章 カーテンウォール
- 第18章 塗装工事
- 第19章 内装工事
- 第20章 ユニット及びその他工事
- 第21章 その他

I 工事概要及び範囲

1. 工事場所 帯広市東8条南11丁目1番地

2. 工事範囲 ※ 下記●は、工事対象範囲を示す。

	名称	構造種別・階数	数量	単位	備考
●	校舎	RC造 3階建	1	棟	
○					
○					
○					

3. 建設工事に係る資材の再資源化に関する法律の対象の有無 ○ 有 ● 無

4. 指定部分工事

(1) 工事範囲

(2) 指定工期 契約上の着工日より 令和 年 月 日まで

5. 別途工事

6. 施工区分（分離発注の場合のみ記入）

※ 下記●は、工事対象範囲を示す。

項目	工種				備考
	建築	電気	暖房	衛生	
躯体の設備配管用のスリフ、箱抜等及びモルタル等の充填		○	●	○	補強は建築
上記の補強	○				
設備機器用天井、壁、床下地の開口及び開口補強	○				埋込電灯、スピーカー、ファン等
設備機器用天井、壁、床仕上材の切込		○	○	○	補強は建築
設備用天井、床点検口	○				
防火戸用煙感知器、自動閉鎖装置		○			
設備機器用基礎	○	○	○	○	
バルコニー・ルーフ等 排水金物	○			○	配管は衛生
流し台、ユニットバスの排水トラップ	○				接続は衛生
木製建具枠の取付け	○				建具枠のレールの欠込は建築
換気扇等取付枠	○	○	○	○	
同上 防雪フード	○		○		
外壁面入排気ガラリ及び防風板	○		○		
水道検針盤		○	○	○	
灯油集中盤への配線接続		○	○	○	

II 各 工 事

1. 図面(閲覧用設計書を含む)及び、この特記仕様書に記載されていない事項は、全て国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書 令和4年版(各工事編)」(以下「標準仕様書」という。)、 「公共建築改修工事標準仕様書 令和4年版(各工事編)」(以下、改修標準仕様書」という。)、 「建築物解体工事共通仕様書 令和4年版」(以下「解体共通仕様書」という。)及び「北海道建設部土木工事共通仕様書(令和4年10月版)」による。
2. 特記事項の適用については次による。
 - (1) 章は○印を、項目は▷印を塗りつぶしたものを適用する。
 - (2) 特記事項は○印を塗りつぶしたものを適用し、塗りつぶしのない場合は*印をつけたものを適用する。
 - (3) 特記事項で○印を塗りつぶしたものと、(※)印のつけたものがある場合は、共に適用する。
 - (4) 特記事項に記載の()内表示番号は、標準仕様書の該当項目、該当図又は該当表を示す。
3. この特記仕様書に施工部位の記載のないものは図面によるものとする。
4. 本工事における工事監理業務委託の有無 ○有 *無
5. 石綿含有建材の事前調査
あらかじめ関係法令に基づき、次により、石綿含有建材の事前調査を行う。
 - (1) 調査範囲に係る既存の設計図書の貸与をする。
 - (2) 調査は、既存の設計図書、石綿含有建材の調査報告書等の書面調査及び現地での目視調査により確認し、調査結果を取りまとめ、監督員に提出するとともに、その写しを工事の現場に備え置く。また、関係法令等に基づき、官公署へ報告を行う。
なお、分析調査を行う場合は「建材中の石綿含有率の分析方法について」(平成18年8月21日付け基発第0821002号、最終改正 令和3年12月22日付け基発1222第17号)に基づき、定性分析又は定量分析を行うこととする。
 - (3) 調査結果を監督員に報告する。
6. 関係法令等
 - (1) 受注者は、工事の施工に当たり、周辺環境の保全に努めるとともに適用を受ける関係法令等を遵守し、必要に応じて次の関係法令等に従い手続き等を行い、適切に施工すること。
 - ・ 廃棄物の処理及び清掃に関する法律(以下「廃棄物処理法」という。)
 - ・ 建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(以下「建設リサイクル法」という。)
 - ・ 資源の有効な利用の促進に関する法律(以下「資源有効利用促進法」という。)
 - ・ ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法(以下「PCB特別措置法」という。)
 - ・ 特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律(以下「フロン回収破壊法」という。)
 - ・ ダイオキシン類対策特別措置法
 - ・ 労働安全衛生法
 - ・ 大気汚染防止法
 - ・ 騒音規制法
 - ・ 振動規制法
 - ・ 水質汚濁防止法
 - ・ 石綿障害予防規則
 - ・ 特定化学物質障害予防規則
 - ・ 建築基準法
 - ・ 環境基本法
 - ・ 土壌汚染対策法
 - ・ 建設副産物適正処理推進要綱
 - (2) 受注者は、「建設工事公衆災害防止対策要綱 建築工事等編」及び「建築物の解体工事における外壁の崩落等による公衆災害防止対策に関するガイドライン」を遵守し、災害防止に努めること。
7. 工事に係る留意事項及び施工条件は、次のとおりとする。
 - ① 別途工事 柏小学校校舎屋根改修工事と競合するため調整のうえ施工すること。
 - ② 工事工程表の作成については、発注者・学校と十分協議すること。

- ③ 工事期間中は、学校利用者に気を配り、安全を最優先して施工すること。
- ④ 資機材搬出入の経路・時間帯については、発注者・学校と十分協議し決定すること。
- ⑤ 車両の乗り入れは最小限とし、駐車場所については発注者・学校からの指示を受けること。
- ⑥ 疑義が生じた場合には、速やかに発注者と協議すること。
- ⑦ 工事着手前には、必要な箇所に工事周知ビラを掲示すること。
- ⑧ アスベスト撤去作業時においては、飛散させないように十分注意して施工すること。

● 第 1 章 一般共通事項	
項 目	特 記 事 項
▷ 1. 地元材等の優先使用	本工事に使用する主要資材は、地元資材及び道産資材、北海道認定リサイクル製品を使用するよう努めること。（木材及び木材製品は除く。）
▶ 2. 環境への配慮	<p>受注者は本工事において、次の(1)から(4)を遵守すること。</p> <p>(1) 化学物質を放散させる建築材料等（※1） 本工事に使用する建築材料等は、測定対象化学物質を含有していないものを基本とし、安全データシート（SDS）や成分組成表により確認を行うほか、次のア. からウ. を満たすものとする。</p> <p>ア. ホルムアルデヒド放散建築材料に指定されている材料は、JIS又はJASに定められたF☆☆☆☆を使用する。ただし、F☆☆☆☆の材料がない場合は監督員と協議すること。</p> <p>イ. 接着剤は、フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑剤を使用している環境対応型（配慮型）のものとする。</p> <p>ウ. 家具、建具類及び二次製品は、測定対象化学物質を含有しないか含有が極めて少ないものとする。</p> <p>※1 化学物質を放散する建築材料等 合板／木質系フローリング／構造用パネル／集成材／単板積層材／MDF／パーティクルボード／その他の木質建材／ユリア樹脂板／壁紙／保温材／緩衝材／断熱材／接着剤／塗料／仕上材料／表面処理用木材保存（防腐・防蟻）剤</p> <p>(2) 環境物品等の調達 本工事の資材等に係る環境物品等の調達は、北海道グリーン購入基本方針に基づく現行の環境物品等調達方針により行うよう努める。 上記における同調達方針として、資材（材料及び機材を含む）のこん包及び容器は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負荷低減に配慮したものを優先的に選択・使用するよう努めること。</p> <p>(3) 工事中の留意事項</p> <p>ア. 換気の励行 工事期間中は、室内や足場内等の通風、換気を十分に行い、室内に放散された化学物質を室外に放出させること。</p> <p>イ. 施設利用者にシックハウスを発症した場合の措置 工事期間中に当該施設利用者がシックハウス症候群となった場合は、監督員に速やかに報告するとともに、監督員、施設管理者と連携を図りながら原因究明に努めること。 また、施設管理者へ建築材料等の情報提供やVOC測定を行うなど監督員と協議の上、必要な措置を行うこと。</p> <p>(4) 室内空気中の化学物質の濃度測定 室内空気中の化学物質の濃度を測定し、厚生労働省の指針値以</p>

下であることを確認の上、報告すること。

【測定対象化学物質の種類及び指針値】

測定対象化学物質	厚生労働省の指針値（25℃の場合）
* ホルムアルデヒド	0.08ppm（100μg/m ³ ）
* トルエン	0.07ppm（260μg/m ³ ）
* キシレン	0.05ppm（200μg/m ³ ）
* エチルベンゼン	0.88ppm（3,800μg/m ³ ）
* スチレン	0.05ppm（220μg/m ³ ）
○ パラクロベン（学校施設）	0.04ppm（240μg/m ³ ）

濃度測定 ○ 行う ○ 行わない
 測定箇所 () 箇所 ※測定する位置は、図示による。
 測定回数 * 1回 ○ 2回
 測定時期 ※ 測定を行う時期は、監督員の指示による。
 測定方式 拡散法（パッシブ方式）または厚生労働省が示す標準的な測定方法（アクティブ方式）により実施すること。
 分析方法 厚生労働省の示している分析方法による。
 （測定時の平均室温が20度に満たない場合は、厚生労働省が示す温度、湿度による補正（ホルムアルデヒド）を行うこと。）

▷ 3. 地域材の優先使用

本工事に使用する木材または木材を原料とする資材を使用する場合は、地元（管内）木材を優先的に使用することとし、使用した材料の種類、産地等を監督員に報告すること。

▷ 4. 合法木材の使用

木材又は木材を原料とする資材を使用する場合は、間伐材や合法性の証明された材を使用すること。

また、木材の合法性の証明は、「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのガイドライン」（平成18年2月林野庁）に準拠し、資材納入業者から証明を受けるとともに、証明書類を工事完了年度から起算して5年間保存すること。

▶ 5. 特別な材料の工法

設計図書等に指定されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法とする。

▶ 6. 品質計画

建築基準法に定められた区分等

- ・ 風速 ($V_0 = 30 \text{ m/s}$)
- ・ 地表面粗度区分 (○ I ○ II ● III ○ IV)
- ・ 垂直積雪量 (130 cm)

▶ 7. 工事写真

工程写真及び完成写真は、帯広市営繕工事写真撮影要領による。

▶ 8. 技能士

(1) 技能士の適用は次の職種とし、従事する技能士の氏名・職種及び資格を記載した書面により監督員に報告すること。

ただし、作業の軽微なものは、監督員との協議により省略することができる。

なお、施工計画書等の記載事項や添付資料（資格証明等）により、選定技能士の内容が確認できる場合も「技能者選定通知書」の提出を省略できる。

<職種>

型枠施工・鉄筋施工・防水施工・内装仕上げ施工・サッシ施工・ガラス施工・表装・塗装・建築板金・石材施工・建築大工・とび・左官・ブロック建築・タイル張り・エーエルシーパネル施工・カーテンウォール施工・造園・樹脂接着剤注入施工・コンクリート圧送施工・冷凍空気調和機器施工・配管・熱絶縁施工・枠組壁建築、厨房設備施工、自動ドア施工、バルコニー施工、ウェルポイント施工、建具製作、畳製作

- (2) 技能士は、職業能力開発促進法による1級、2級若しくは単一等級の資格を有し、地域技能士会の発行する資格証明書、又は技能検定合格書の写し、或いは技能士手帳の写しを上記(1)の書面に添付すること。
- (3) 技能士は、適用する工事作業中、1名以上の者が自ら作業するとともに、他の技能者に対して、施工品質の向上を図るための作業指導を行うこと。
- ▶ 9. 施工中の安全確保及び環境保全等
 受注者は、標準仕様書に定められた安全確保及び環境保全等のほか、特に次の事項に留意し、工事現場の事故防止に努めること。
- (1) 労働者の安全衛生教育の徹底すること。
 (2) 工事現場の安全パトロールの励行すること。
 (3) 建設機械器具などの危害防止処置を徹底すること。
 (4) 第三者に災害を及ぼしてはならない。
 (5) 公害防止に努めること。
 (6) 公道の汚染防止に努めること。
 (7) 善良な管理者の注意をもってしても、災害又は公害の発生の恐れがある場合の処置は、監督員と協議すること。
- ▶ 10. 交通安全管理
 受注者は、工事の施工中の交通事故防止のため交通安全管理に努め、次の事項を遵守すること。
- (1) 工事施工中の安全管理（交通誘導員の配置日及び人数を含む）について、工事着手に先立ち作成する総合施工計画書で計画すること。
 なお、計画は資材搬出入運行路線・点検体制・その他車両運行に係る安全対策等について道路管理者等関係機関と十分な事前協議を行い、以後も常に連絡を密にとりながら適切な処置を講じること。
- (2) 常に下請負人も含め工事施工中の交通安全管理状況の把握に努め、管理状況を適宜監督員に報告すること。
- (3) 工事に関連して交通事故が発生したときは速やかに監督員に連絡した後、書面により報告すること。
- (4) 運搬には、許可業者を選定するなどして、過積載又は過労運転等に伴う交通事故防止に努めること。
- (5) 建設機械（ブルドーザー、バックホ等）は、排出ガス対策型を使用し、かつ、低騒音・低振動型の車両を使用すること。
- ▶ 11. 工事完成時の提出図書等
 工事が完成した時は、帯広市営繕工事現場管理要領により、書類を整理のうえ、イージーキャビネット（A4版）に収納し提出すること。完成図の製本は専門業者によるものとする。
- (1) 完成図 * 作成する ○ 作成しない
 ・ 縮小版製本（A3二つ折り） ○ 2部 ● 3部
 ・ 100%製本 1部
 ・ 別途工事分完成図について ○ まとめる ● まとめない
 ・ 電子データ（完成図JWW・PDF）（完成写真PDF）
 CD-R等による提出
 ・ 設計原図の貸与 * 有り ○ 無し
 ・ CADデータの貸与 * 有り ○ 無し
 ※CADデータの貸与有りの場合
 * 完成図のCADデータ及びPDFデータ CD-R等による
- (2) 保全に関する資料（提出部数 * 1部 ○ ___部）
- (3) 保守に関する指導案内書（機器取扱説明書）
 各設備の機能が十分発揮しうよう、主要機器を含めた装置の取扱説明及び保守についての事項を記載したものとする。
 指導案内書 A4判カラーを標準とする 2部（住宅営繕課1＋施設1）

同上データ C D - R等による 1式

▶ 12. 高度技術・創意工夫

(4) その他、必要とする書類については、監督員の指示による。
受注者は、工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や技術力に関する事項について工事完了時まで所定の様式により提出することができる。

▷ 13. 電力基本料金

本受電から引渡しまでの電力基本料金 * 本工事 ○ 別途

▶ 14. 発生材の処理等

発生材の処理等は次により、「建設リサイクル法」、「資源有効利用促進法」、「廃棄物処理法」等の関係法令及び「建設副産物適正処理推進要綱」に従い適切に処理すること。

処分を行った場合は、処分数量確定のため、その施設の許可書等（写し）、受入伝票又はマニフェスト伝票等（写し）を監督員に提出すること。

明示している処分場所については、受入可能な施設のうち、積算上運搬費等も含めて一番安価な処理施設としているが、処理施設場所を指定するものではない。

受注者の提示する処理施設と積算上の処理施設が異なる場合においても設計変更の対象としない。

ただし、異なる処理施設となった理由が受注者の責によるものでないと判断される場合は、設計変更の対象として扱う。

なお、下記の内容を変更する場合は、別途、監督員と協議をする。

- (1) 発生材のうち、引き渡しを要する範囲は次による。監督員の指示する方法及び位置に堆積、整理し所定の発生材報告書により監督員に報告すること。

引き渡しを要する範囲： _____

- (2) 受注者が処分する有価物の範囲は次による。

有価物の範囲： 金属全般

なお、有価物は、次の登録又は許可業者で処分すること。

7. 廃棄物再生事業者登録（知事登録）

1. 金属くず商許可業者（警察許可）

また、処分を行った場合は、その施設の許可書（写し）と受入伝票又はマニフェスト伝票等、及び許可書等の写しを監督員に提出すること。

- (3) 特別管理型産業廃棄物

種 類	アスベスト
処理方法	最終処理
処分場所	受入先： 芽登アウングル処分場
	片道運搬距離 (60 km)
種 類	
処理方法	
処分場所	受入先：
	片道運搬距離 (km)

- (4) 再資源化を図るもの（特定建設資材廃棄物）

種 類	コンクリート塊
場 所	受入先： (株)岩佐
	片道運搬距離 (6.7 km)
種 類	アスファルト・コンクリート塊
場 所	受入先： (株)岩佐
	片道運搬距離 (6.7 km)
種 類	建設発生木材

場所	受入先：
	片道運搬距離 (km)

※ 設計上、特定建設資材廃棄物は発生しない場合で、受注者の都合により実際に特定建設資材を発生させ、廃棄物として処分する場合は、当該特定建設資材廃棄物の再資源化等実施方法の確定後に、監督員の確認を受けること。

(5) 再資源化を図るもの（特定建設資材廃棄物以外）

種 類	
処理区分	○ 縮減 ○ 現場で使用
場所	受入先：
	片道運搬距離 (km)

(6) その他の発生材

種 類	保温材類
処理区分	● 中間処理 ○ 最終処分
処分場所	受入先： 山口重機(有)
	片道運搬距離 (4.6 km)
種 類	廃プラスチック
処理区分	● 中間処理 ○ 最終処分
処分場所	受入先： 山口重機(有)
	片道運搬距離 (4.6 km)
種 類	
処理区分	○ 中間処理 ○ 最終処分
処分場所	受入先：
	片道運搬距離 (km)

(7) 建設廃棄物の収集・運搬は、産業廃棄物収集運搬業の許可を受けた者とする。

当該運搬車には、次に掲げる表示を行い、環境省令で定める書面を備え付けること。

産業廃棄物収集運搬車						
業 者 名	(○	○	○	○)
許可番号	x	x	x	x	x	

(8) 「建設リサイクル法」対象工事及び「資源有効利用促進法」で定められた次の資材の搬入、副産物の搬出がある工事は、工事着手時に再生資源利用・利用促進計画書を提出し、提出時にその内容を説明するとともに、書面又は映像（デジタルサイネージ）により工事現場の見やすい場所へ掲示し、可能な限りインターネットの利用により公表するよう努めなければならない。

また、工事完了時に再生資源利用・利用促進実施書を提出し、監督員から請求があった時は、当該実施状況を報告すること。

資源有効利用促進法で定められた一定規模以上の工事
(次表の一つでも該当するもの)

・ 再生資源利用計画書

次のような建築資材を搬入する工事

土 砂	500 m ³ 以上
砕 石	500 t 以上
加熱アスファルト混合物	200 t 以上

・ 再生資源利用促進計画書

次のような指定副産物を搬出する建設工事

土 砂	500 m ³ 以上
コンクリート塊	合計
アスファルト・コンクリート塊	200 t 以上

建設発生木材

▶ 15. 特殊な建築副産物

(1) 施工調査計画

特殊な建設副産物の施工調査は、次による。 (7.1.3)

なお、分析調査の結果、設計図書と異なる場合は、監督員と協議する。

7. 使用状況について、設計図書及び目視により製造所名、製造年、型式、種類、数量等を調査する。

1. 分析調査

○ 行う ○ 行わない

▷ 16. 特殊な建設副産物の回収及び処分

特殊な建設副産物の回収及び処分は、次による。 (7.3.1)

(1) フロン

7. 冷媒

関係法令等に従い、登録を受けた回収業者。

処理区分	* 回収
場所	業者名等：
	住 所：
	片道運搬距離 (km)

1. 建材用断熱材フロン

処理区分	* 焼却
場所	業者名等：
	住 所：
	片道運搬距離 (km)

(2) ハロン

ハロン消火設備のハロン容器は、ハロン消火設備設置業者等に処理を委託。

処理区分	* 処理
場所	業者名等：
	住 所：
	片道運搬距離 (km)

(3) イオン化式感知器

製造業者に処理を委託。

処理区分	* 処理
場所	業者名等：
	住 所：
	片道運搬距離 (km)

(4) 六ふっ化硫黄ガス

製造業者に回収を委託。

種類	○ 絶縁開閉器 ○ 絶縁変圧器等の受変電機器
処理区分	* 処理
場所	業者名等：
	住 所：
	片道運搬距離 (km)

(5) PFOS (ペルフルオロ (オクタン-1-スルホン酸))

種類	○ 泡消火剤 ○ その他 ()
処理区分	○ 中間処理 ○ 最終処分
場所	業者名等：
	住 所：
	片道運搬距離 (km)

(6) その他の特殊な建設副産物

種類	○
処理区分	○ 処理 ○ その他の処理方法 ()

場所	業者名等：
	住 所：
	片道運搬距離 (km)
	【 】 (総合) 振興局管内
	住 所：
	片道運搬距離 (km)

▶ 17. 北海道循環資源利用促進税

本工事で発生する産業廃棄物が、道内の最終処分場に直接搬入される場合、又は中間処理場に搬入される場合でも残さ等が発生し、最終処分場に搬出される場合は、循環税が課税されるので適正に処理すること。

▷ 18. 自主施工期間の施工条件

自主施工期間中は、低温時施工により品質管理上支障の起こす恐れのない工種は、これを積極的に活用できる。

ただし、支障の起こす恐れのある次の工種は、工法等を監督員と十分協議の上、施工するものとする。

<工種> コンクリート・屋外防水・屋上防水・タイル・左官・塗装・緑化工事その他これに類する工事

▶ 19. 季節労働者などの雇用

工事施工に際しては、職業安定機関と密接な連携を図り、季節労働者などの雇用の拡大に努める。

▶ 20. 下請負人等への支払いの適正化

下請負人及び資材業者に対する支払いは現金払いとし、やむを得ず手形払いとする時は、当該手形期間を短く(90日以内)するよう努める。

▶ 21. 火災保険等

工事着手から完成引渡までの間を契約金額に相当する保険等に加入するものとし、取扱いは次による。

(1) 付保する保険

工事の内容により、火災保険、建設工事保険、組立保険等の1以上の保険を付保する。

なお、受注者自ら上記の保険に追加して付する特約等については、これを妨げるものではない。

(2) 保険金

原則として請負代金額とする。

(3) 保険の期間

保険の加入期間は原則として工事着手日から完成引渡しまでの間とする。

工事着手日 ~ 実際の工事のための準備工事(現場事務所等の建設又は測量を開始すること)の初日をいう。

完成引渡し ~ 工期に14日追加した日とする。

(4) 対象外工事

次に掲げる工事は、対象外工事として保険を付さない事ができる。

(ア) 解体、撤去、分解又は片づけ工事

(イ) 外構工事

(5) 保険契約の変更

保険契約締結後に請負代金額の変更又は工期延長等があった場合は、相応の保険契約を変更しなければならない。

(6) 保険証券等の提出

保険契約を締結(変更を含む)した場合は、当該保険証券等の写しを工事着手の前に、監督員へ提出しなければならない。

(7) 協議

この取扱いにより難しい事項については、必要に応じて受注者は、発注者と協議するものとする。

▶ 22. 法定外の労災保険の付保

本工事の受注者は、下記に従い、法定外の労災保険に付さなければならない。

	<p>(1) この特記仕様書における「法定外の労災保険」とは、従業員等が業務上の災害によって身体の障害（後遺障害、死亡を含む）を被った場合に、法定労災保険の給付に上乗せして雇用者が従業員等又はその遺族に支払う金額に対し、保険会社が雇用者に保険金を支払うことを定める契約を言う。</p> <p>(2) 受注者は、本工事の契約工期を包含する保険期間による「法定外の労災保険」（以下、「法定外労災保険」という。）を締結しなければならない。本工事に係る契約締結時において「法定外労災保険」の契約を締結していない場合は、工事着工の前に「法定外労災保険」を締結すること。</p> <p>(3) 受注者は「法定外労災保険」の保険証券の写し又は加入証明書の原本を工事着手の前に、監督員へ提出しなければならない。</p> <p>(4) 契約書第23条に基づき本工事の工期を変更したことにより、工期が「法定外労災保険」の保険適用外に及んだ場合、受注者は速やかに変更後の工期による保険期間の変更又は保険の追加契約を行い、変更又は追加して契約した「法定外労災保険」の保険証券の写し又は加入証明書の原本を監督員へ提出しなければならない。</p> <p>(5) 本工事で求める「法定外労災保険」については、保険契約に定める保険金額の多寡や特約の有無等の契約内容は問わず、保険契約の事実のみを求めるものとする。</p>
▶ 23. 墜落制止用器具（フルハーネス型）の使用	<p>労働安全衛生法令で定める、墜落制止用器具（フルハーネス型）の使用が原則とされる作業については、墜落制止用器具（フルハーネス型）を使用すること。</p>
▶ 24. 現場環境改善	<p>魅力ある建設工事を推進するため、工事現場の環境改善に努める。</p>
▷ 25. 快適トイレの設置	<p>本工事は、「快適トイレ設置工事」の対象工事である。</p> <p>(1) 受注者が当該工事の現場に仮設トイレを設置する場合は、建設現場を男女ともに働きやすい職場環境へと改善することを目的に、快適トイレの設置を検討すること。</p> <p>(2) 快適トイレとは、次のア.及びイ.の各項目を全て満たすものとする。ウ.については必須ではないが、装備していればより快適になると思われる項目なので、設置を検討すること。</p> <p>ア. 快適トイレに求める標準仕様</p> <p>(ア) 洋式（洋風）便器</p> <p>(イ) 水洗機能（簡易水洗、し尿処理装置付き含む）</p> <p>(ウ) 臭い逆流防止機能（フラッパー機能：必要に応じて消臭剤等活用し臭い対策を取る）</p> <p>(エ) 容易に開かない施錠機能（二重ロック等：二重ロックの備えがなくても容易に開かないことを製造者が説明出来るもの）</p> <p>(オ) 照明設備（電源がなくても良いもの）</p> <p>(カ) 衣類掛け等のフック付、又は荷物置き場設備機能（耐荷重5kg以上）</p> <p>イ. 快適トイレとして活用するために備える付属品</p> <p>(ア) 現場に男女がいる場合に男女別の明確な表示</p> <p>(イ) 周囲からトイレの入口が直接見えない工夫</p> <p>(ウ) サニタリーボックス</p> <p>(エ) 鏡付きの洗面台</p> <p>(オ) 便座除菌シート等の衛生用品</p> <p>ウ. 推奨する仕様、付属品</p> <p>(ア) 便房内寸法900×900mm以上（半畳程度以上）</p>

- ▶ 26. 建設業退職金共済制度
- ▶ 27. 工事標識
- ▶ 28. 工事実績情報の登録
- ▶ 29. 施工体制台帳の整備
- ▶ 30. 共同企業体編成表の提出
- ▶ 31. 完成施設事後調査実施
- ▶ 32. 暴力団員等による不当介入を受けた場合の対応

- (イ) 擬音装置
- (ウ) 着替え台
- (エ) フラッパー機能の多重化
- (オ) 窓など室内温度の調整が可能な設備
- (カ) 小物置き場等（トイレトーパー予備置き場）
- (3) 快適トイレの設置にあたっては、次に留意する。
 - 7. 男女別で各1基ずつ設置することを原則とする。ただし、女性が現場にいない場合はこの限りではない。
 なお、設計変更数量の上限は、男女別で各1基ずつ2基/現場まで、一体型で1基/現場までとする。
 - イ. 具体的な実施内容や設置時期については、工事着手前の施工計画書提出時に、(2)の項目を満たすことを確認できる資料（見積書を含む）を監督員に提出し、規格・設置基数等の詳細について、協議のうえ決定すること。
 - ウ. 手配が困難な場合は、監督員と協議のうえ設置しないことができる。

工事現場には「建設業退職金共済制度適用事業主工事現場」の標識を掲示すること。
 受注者は、着工後速やかに公衆の見やすい場所に工事標識を掲示する。

009	工 事 名 工 期 自 令 和 年 月 日 至 令 和 年 月 日 発 注 者 帯 広 市 監 理 帯 広 市 都 市 環 境 部 都 市 建 築 室 住 宅 営 繕 課 受 注 者
-----	---

1,800

- 注1 黒文字・丸ゴシック カラー鉄板（白）タルキ下地
- ▶ 28. 工事実績情報の登録

受注者は、受注時、変更時及び完了時に（10日以内）工事実績情報システム（CORINS）に基づき、「工事カルテ」を作成し、監督員の確認を受けた後に、（財）日本建設情報総合センターに登録申請しなければならない（ただし、請負代金額500万円以上2,500万円未満の工事については、受注時のみ登録するものとする。）。また、同センター発行の「工事カルテ受領書」の写しを監督員に提出しなければならない。（対象工事：請負代金額500万円以上の全工事）
 - ▶ 29. 施工体制台帳の整備

建設業法に基づく施工体制台帳を作成し、施工管理体制に関する事項を監督員に提出しなければならない。また、公衆の見やすい場所に施工体系図を掲示すること。
 - ▶ 30. 共同企業体編成表の提出

本工事を共同企業体で受注した場合は、契約締結後5日以内に共同企業体編成表作成のうえ監督員に提出しなければならない。
 - ▶ 31. 完成施設事後調査実施

帯広市工事請負契約に定める「契約不適合責任」期間内に、完成施設事後調査実施方針に基づき下記調査を行う。

 - 一次調査
 - ※ 一次調査及び二次調査
 - ▶ 32. 暴力団員等による不当介入を受けた場合の対応
 - (1) 受注者は、暴力団員等による不当要求又は工事（業務）妨害（以下「不当介入」という。）を受けた場合は、断固としてこれを拒否しなければならない。

また、不当介入があった時点で速やかに警察に通報するとともに、捜査上必要な協力を行わなければならない。

<p>▷ 33. 特定住宅瑕疵担保責任の履行の確保等に関する法律への対応</p>	<p>(2) 受注者は、前記により警察へ通報を行った際には、速やかにその内容を監督員に報告しなければならない。</p> <p>(3) 受注者は、暴力団員等による不当介入を受けたことにより、工程に遅れが生じる等の被害が発生した場合は、監督員と協議するものとする。</p> <p>受注者は、「特定住宅瑕疵担保責任の履行の確保等に関する法律」に基づき、保険への加入又は保証金の供託を行うこと。</p>
<p>▶ 34. 週休2日工事</p>	<p>(1) 本工事は、「週休2日工事」の対象工事であり、当初予定価格は4週8休以上の達成を前提とした経費の補正を行っている。</p> <p>(2) 受注者は、週休2日による施工を希望する場合、契約後、発注者と協議を行い、協議が整った場合に週休2日による施工を行うことができる。</p> <p>(3) 週休2日とは、対象期間において、土日・祝日に関わらず、週休2日（4週8休）以上の現場閉所を行うことをいう。 対象期間は、工事着手日（現場に継続的に常駐した最初の日）から工事完成日（各種仮設物を撤去し、現場の清掃を完了した日）までの期間をいう。なお、年末年始6日間、夏期休暇3日間、工場製作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間のほか、発注者があらかじめ対象外としている内容に該当する期間（受注者の責によらず現場作業を余儀なくされる期間等）は含まない。</p> <p>(4) 現場閉所とは、巡回パトロール、保守点検等、現場管理上必要な作業を行う場合を除き、現場が閉所された状態をいう。なお、降雨、降雪などによる予定外の現場閉所日についても現場閉所日に含めるものとする。</p> <p>(5) 週休2日（4週8休）以上とは、対象期間内の現場閉所日数の割合（以下「現場閉所率」という。）が、28.5%（8日/28日）以上の水準に達する状態をいう。</p> <p>(6) 週休2日の確保の取組は、将来の担い手確保、入職しやすい環境づくりを目指すものであることから、週休2日による施工を実施する受注者は、その趣旨に沿った休日の取得に努めるものとする。</p> <p>(7) 週休2日の実施の確認方法は、次によるものとする。</p> <p>7. 工事着手前</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 受注者は、週休2日の計画工程表を施工計画書に添付し発注者へ提出する。 ・ 分離・分割発注した工事の受注者は、受注者間で協力し、工事の進捗に影響が出ないように調整したうえで現場閉所の予定日を決定する。 ・ 受注者は、現場閉所の予定日を明示した計画工程表（任意様式とし、他の書類と兼ねることができる。）を監督員へ提出する。 <p>4. 工事着手後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 監督員は、適宜、対象期間内の現場閉所の状況を確認する。 ・ 監督員は、現場閉所の状況の確認に当たっては、新たな書類作成等により事務負担が増大しないよう留意し、既存の書類の活用に努める。 <p>(8) 発注者が必要に応じ週休2日の実施状況の聞き取り等を行う場合には、受注者は協力するものとする。</p>

(9) 受注者が週休2日による施工を希望しない場合又は現場閉所の達成状況の結果、4週8休に満たない場合は、労務費（工事費の積算に用いる複合単価、市場単価及び物価資料の掲載価格（材工単価）の労務費）の補正について、履行状況に応じた設計変更を行う。

7. 現場の閉所状況

(7) 4週8休以上

現場閉所率が28.5%（8日/28日）以上の場合

(イ) 4週7休以上4週8休未満

現場閉所率が25.0%（7日/28日）以上28.5%未満の場合

(ウ) 4週6休以上4週7休未満

現場閉所率が21.4%（6日/28日）以上25.0%未満の場合

(10) 各経費の補正は対象期間全体に対する週休2日の達成状況により決定するものとするが、建設業の働き方改革を推進する観点から、受注者は1か月ごとに4週8休以上の現場閉所が達成できるよう努めるものとする。

(11) 「週休2日工事」について、受注者を対象としたアンケート調査の依頼があった場合は協力するものとする。

(12) その他の事項については、帯広市週休2日工事実施要領によるものとする。

▷ 35. 防寒養生

防寒養生は、次の範囲とする。

(1) 養生期間

12月16日から3月15日を原則とする。

ただし、12月16日以前と3月15日以降において品質確保の観点から防寒養生の実施が必要となる期間については設計変更できるものとする。

なお、寒中コンクリートの養生期間については、第6章コンクリート工事の期間

(2) 養生方法

7. 仮囲 ○ 上家仮囲 (* 単管足場+コンパネ+シート程度)
○ 側仮囲 (* ビニールシート ○ コンパネ)
4. 採暖 ○ 外部採暖 ○ 内部採暖

▶ 36. 主任技術者又は監理技術者の専任を要しない期間

請負契約の締結後、現場施工に着手するまでの期間（現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間）については、主任技術者又は監理技術者の工事現場への専任を要しない。なお、現場施工に着手する日については、請負契約の締結後、受注者が申出た日とし、工事工程表、総合施工計画書、工事打合せ記録簿いずれかで示すこと。

不明な点については、監督員と協議すること。

● 工事概要

項目	特記事項			
▶ 1. 工事種目	名称	新設	改修	摘要
	空気調和設備工事※	○ 一式	○ 一式	
	暖房設備工事※	○ 一式	● 一式	
	冷房設備工事※	○ 一式	○ 一式	
	換気設備工事	○ 一式	● 一式	
	排煙設備工事	○ 一式	○ 一式	
	給油設備工事	○ 一式	● 一式	撤去工事のみ
	自動制御設備工事	○ 一式	○ 一式	
	屋外給水設備工事	○ 一式	○ 一式	
	屋内給水設備工事	○ 一式	● 一式	
	屋外排水設備工事	○ 一式	○ 一式	
	屋内排水設備工事	○ 一式	○ 一式	
	屋内給湯設備工事	○ 一式	● 一式	
	衛生器具設備工事	○ 一式	○ 一式	
	消火設備工事	○ 一式	○ 一式	
	屋外ガス設備工事	○ 一式	● 一式	
	屋内ガス設備工事	○ 一式	● 一式	
	厨房機器設備工事	○ 一式	○ 一式	
環境配慮改修工事	○ 一式	● 一式		
	○ 一式	○ 一式		
※ 種目は●印を付したものを適用する ※ 空気調和設備工事とは、空調機等を設置し暖冷房を行う工事をいう ※ 暖房設備工事とは、直暖や個別暖房のみの工事をいう ※ 冷房設備工事とは、個別冷房のみの工事をいう				

● 機械設備共通事項

項目	特記事項													
▶ 1. 配管 1) 配管材料	施工区分													
	管種	冷温水	冷却水	蒸気	温水	給油	冷媒	給水	給湯	排水	通気	消火	ガス	雨水
	● 配管用炭素鋼管(白)						●		●				●	
	● " (黒)			●										
	○ 圧力配管用炭素鋼管(黒)													
	○ 塩ビライニング鋼管(VA)													
	○ " (VB)													
	○ 排水用塩ビライニング鋼管													
	● 耐熱性塩ビライニング鋼管								●					
	○ 外面被覆鋼管													
	○ ナイロンコーティング鋼管													
	○ ステンレス鋼管													
	○ 銅管(M)													
	○ 保温付被覆鋼管													
	○ 被覆鋼管													

<input type="checkbox"/>	ビニル管(VP)																					
<input type="checkbox"/>	" (VU)																					
<input type="checkbox"/>	樹脂管																					
<input type="checkbox"/>	耐火二層管																					
<input type="checkbox"/>	ポリエチレン管																					
<input type="checkbox"/>	合成樹脂製可とう電線管																					
<input type="checkbox"/>	鉛管																					
<input type="checkbox"/>	コンクリート管																					
<input type="checkbox"/>	鑄鉄管																					
<input type="checkbox"/>	耐衝撃性ポリ塩化ビニル管																					
<input type="checkbox"/>	内外面塩ビライニング鋼管(VD)																					
<input type="checkbox"/>	灯油用被覆鋼管																					
<input type="checkbox"/>																						
<input type="checkbox"/>																						
<input type="checkbox"/>																						

2) 弁類

3) 試験

4) ねじ加工

5) ステンレス鋼管継手の種類

6) 埋設配管

※ 該当項目に●印をつける
 2列書きになっている部分は左側屋外配管、右側屋内配管とする
 水道直圧及び高置タンクまでは1Mpaとし、他は各種配管の水圧検査圧力値を超える最高許容圧力を有するバルブとする
 水抜栓は水道管理者指定品とする
 配管途中若しくは隠ぺい、埋戻し前又は配管完了後の塗装又は被覆施工前に行う
 圧力値、保持時間は、標準仕様書第2編 2.9.2から2.9.5による
 試験終了後、報告書を監督員に提出すること
 ○ 転造ねじ加工 (蒸気還水管)
 丸ニップルは使用禁止とする、やむを得ない場合は角ニップルとする

種類	冷温水	冷却水	温水	給水	給湯	消火	備考
<input type="checkbox"/> 圧縮・プレス							ダブルプレス
<input type="checkbox"/> 拡管式							
<input type="checkbox"/> 溶接							
<input type="checkbox"/> ハウジング継手							
<input type="checkbox"/> ねじ込み継手							

防食処理 ○ 土中
 ○ ペトロラタム系防食テープ ()
 ○ プチルゴム系防食テープ ()
 ○ コンクリート内
 ○ プラスチックテープ ()

地中埋設標・埋設表示テープ・屋外配管埋設深さ

	地中埋設標		埋設表示テープ		屋外配管埋設深さ		
	要	不要	要	不要	車両道路	道路以外	凍結深度
給水配管	<input type="checkbox"/> 要	<input type="checkbox"/> 不要	<input type="checkbox"/> 要	<input type="checkbox"/> 不要	GL- m以上	GL- m以上	GL- m以上
ガス配管	<input checked="" type="checkbox"/> 要	<input type="checkbox"/> 不要	<input checked="" type="checkbox"/> 要	<input type="checkbox"/> 不要	GL-0.6m以上	GL-0.3m以上	
油配管	<input type="checkbox"/> 要	<input type="checkbox"/> 不要	<input type="checkbox"/> 要	<input type="checkbox"/> 不要	GL-0.6m以上	GL-0.3m以上	

※都市ガス配管は供給事業者の指定する深さとする
 要の場合、地中埋設標は図示する箇所、埋設表示テープは屋外埋設配管部分に適用する

7) 溶接部の検査	<input type="checkbox"/> 目視検査 <input type="checkbox"/> 非破壊検査 (溶接部の種類 :) (検査の種類 :) (配管種別 :) (使用圧力 :) (抜き取り率 :)														
8) 配管洗浄	<p>詳細は標準仕様書の当該事項による</p> <input type="checkbox"/> 冷温水管 <input type="checkbox"/> 給水管 (<input type="checkbox"/> 1次側 <input type="checkbox"/> 2次側) <input type="checkbox"/> 冷却水管 <input type="checkbox"/> 給湯管 <input type="checkbox"/> 受水タンク <input type="checkbox"/> 高置タンク <input type="checkbox"/> 貯湯タンク <input type="checkbox"/> 給湯用膨張タンク 高周波洗浄もしくは同等以上の方法による 飲料水管の場合は、端末において遊離残留塩素が0.2mg/L以上検出されるまで消毒を行う														
▶ 2. 保温	<p>標準仕様書第2編3. 1. 4及び5のうち保温材及び外装材は次による</p> <p>断熱材は、特定フロン、代替フロン等、オゾン層を破壊する物質を含有していないこと</p>														
1) 配管	<table border="0"> <tr> <td data-bbox="616 801 692 828">保温材</td> <td data-bbox="756 801 1410 904"> <input checked="" type="checkbox"/> グラスウール () <input type="checkbox"/> ロックウール () <input type="checkbox"/> ポリスチレンフォーム () </td> </tr> <tr> <td data-bbox="616 913 724 940">外装材</td> <td data-bbox="730 913 1410 1626"> <table border="0"> <tr> <td data-bbox="730 913 756 940">イ)</td> <td data-bbox="756 913 1410 1048"> 屋内露出 <input type="checkbox"/> 合成樹脂カバー () <input checked="" type="checkbox"/> アルミガラスクロス () <input type="checkbox"/> その他 () () </td> </tr> <tr> <td data-bbox="730 1057 756 1084">ロ)</td> <td data-bbox="756 1057 1410 1160"> 機械室・倉庫 <input checked="" type="checkbox"/> アルミガラスクロス () <input type="checkbox"/> その他 () () </td> </tr> <tr> <td data-bbox="730 1169 756 1196">ハ)</td> <td data-bbox="756 1169 1410 1272"> 天井内・パイプシャフト内及び空隙壁中 <input type="checkbox"/> アルミガラスクロス () <input type="checkbox"/> その他 () () </td> </tr> <tr> <td data-bbox="730 1281 756 1308">ニ)</td> <td data-bbox="756 1281 1410 1451"> 床下・暗渠内 <input type="checkbox"/> 着色アルミガラスクロス () <input type="checkbox"/> アルマット () <input type="checkbox"/> 保温なし () <input type="checkbox"/> その他 () </td> </tr> <tr> <td data-bbox="730 1460 756 1487">ホ)</td> <td data-bbox="756 1460 1410 1626"> その他 <input type="checkbox"/> その他 () () <input type="checkbox"/> その他 () () <input type="checkbox"/> その他 () () <input type="checkbox"/> その他 () () </td> </tr> </table> </td> </tr> </table>	保温材	<input checked="" type="checkbox"/> グラスウール () <input type="checkbox"/> ロックウール () <input type="checkbox"/> ポリスチレンフォーム ()	外装材	<table border="0"> <tr> <td data-bbox="730 913 756 940">イ)</td> <td data-bbox="756 913 1410 1048"> 屋内露出 <input type="checkbox"/> 合成樹脂カバー () <input checked="" type="checkbox"/> アルミガラスクロス () <input type="checkbox"/> その他 () () </td> </tr> <tr> <td data-bbox="730 1057 756 1084">ロ)</td> <td data-bbox="756 1057 1410 1160"> 機械室・倉庫 <input checked="" type="checkbox"/> アルミガラスクロス () <input type="checkbox"/> その他 () () </td> </tr> <tr> <td data-bbox="730 1169 756 1196">ハ)</td> <td data-bbox="756 1169 1410 1272"> 天井内・パイプシャフト内及び空隙壁中 <input type="checkbox"/> アルミガラスクロス () <input type="checkbox"/> その他 () () </td> </tr> <tr> <td data-bbox="730 1281 756 1308">ニ)</td> <td data-bbox="756 1281 1410 1451"> 床下・暗渠内 <input type="checkbox"/> 着色アルミガラスクロス () <input type="checkbox"/> アルマット () <input type="checkbox"/> 保温なし () <input type="checkbox"/> その他 () </td> </tr> <tr> <td data-bbox="730 1460 756 1487">ホ)</td> <td data-bbox="756 1460 1410 1626"> その他 <input type="checkbox"/> その他 () () <input type="checkbox"/> その他 () () <input type="checkbox"/> その他 () () <input type="checkbox"/> その他 () () </td> </tr> </table>	イ)	屋内露出 <input type="checkbox"/> 合成樹脂カバー () <input checked="" type="checkbox"/> アルミガラスクロス () <input type="checkbox"/> その他 () ()	ロ)	機械室・倉庫 <input checked="" type="checkbox"/> アルミガラスクロス () <input type="checkbox"/> その他 () ()	ハ)	天井内・パイプシャフト内及び空隙壁中 <input type="checkbox"/> アルミガラスクロス () <input type="checkbox"/> その他 () ()	ニ)	床下・暗渠内 <input type="checkbox"/> 着色アルミガラスクロス () <input type="checkbox"/> アルマット () <input type="checkbox"/> 保温なし () <input type="checkbox"/> その他 ()	ホ)	その他 <input type="checkbox"/> その他 () () <input type="checkbox"/> その他 () () <input type="checkbox"/> その他 () () <input type="checkbox"/> その他 () ()
保温材	<input checked="" type="checkbox"/> グラスウール () <input type="checkbox"/> ロックウール () <input type="checkbox"/> ポリスチレンフォーム ()														
外装材	<table border="0"> <tr> <td data-bbox="730 913 756 940">イ)</td> <td data-bbox="756 913 1410 1048"> 屋内露出 <input type="checkbox"/> 合成樹脂カバー () <input checked="" type="checkbox"/> アルミガラスクロス () <input type="checkbox"/> その他 () () </td> </tr> <tr> <td data-bbox="730 1057 756 1084">ロ)</td> <td data-bbox="756 1057 1410 1160"> 機械室・倉庫 <input checked="" type="checkbox"/> アルミガラスクロス () <input type="checkbox"/> その他 () () </td> </tr> <tr> <td data-bbox="730 1169 756 1196">ハ)</td> <td data-bbox="756 1169 1410 1272"> 天井内・パイプシャフト内及び空隙壁中 <input type="checkbox"/> アルミガラスクロス () <input type="checkbox"/> その他 () () </td> </tr> <tr> <td data-bbox="730 1281 756 1308">ニ)</td> <td data-bbox="756 1281 1410 1451"> 床下・暗渠内 <input type="checkbox"/> 着色アルミガラスクロス () <input type="checkbox"/> アルマット () <input type="checkbox"/> 保温なし () <input type="checkbox"/> その他 () </td> </tr> <tr> <td data-bbox="730 1460 756 1487">ホ)</td> <td data-bbox="756 1460 1410 1626"> その他 <input type="checkbox"/> その他 () () <input type="checkbox"/> その他 () () <input type="checkbox"/> その他 () () <input type="checkbox"/> その他 () () </td> </tr> </table>	イ)	屋内露出 <input type="checkbox"/> 合成樹脂カバー () <input checked="" type="checkbox"/> アルミガラスクロス () <input type="checkbox"/> その他 () ()	ロ)	機械室・倉庫 <input checked="" type="checkbox"/> アルミガラスクロス () <input type="checkbox"/> その他 () ()	ハ)	天井内・パイプシャフト内及び空隙壁中 <input type="checkbox"/> アルミガラスクロス () <input type="checkbox"/> その他 () ()	ニ)	床下・暗渠内 <input type="checkbox"/> 着色アルミガラスクロス () <input type="checkbox"/> アルマット () <input type="checkbox"/> 保温なし () <input type="checkbox"/> その他 ()	ホ)	その他 <input type="checkbox"/> その他 () () <input type="checkbox"/> その他 () () <input type="checkbox"/> その他 () () <input type="checkbox"/> その他 () ()				
イ)	屋内露出 <input type="checkbox"/> 合成樹脂カバー () <input checked="" type="checkbox"/> アルミガラスクロス () <input type="checkbox"/> その他 () ()														
ロ)	機械室・倉庫 <input checked="" type="checkbox"/> アルミガラスクロス () <input type="checkbox"/> その他 () ()														
ハ)	天井内・パイプシャフト内及び空隙壁中 <input type="checkbox"/> アルミガラスクロス () <input type="checkbox"/> その他 () ()														
ニ)	床下・暗渠内 <input type="checkbox"/> 着色アルミガラスクロス () <input type="checkbox"/> アルマット () <input type="checkbox"/> 保温なし () <input type="checkbox"/> その他 ()														
ホ)	その他 <input type="checkbox"/> その他 () () <input type="checkbox"/> その他 () () <input type="checkbox"/> その他 () () <input type="checkbox"/> その他 () ()														
2) バルブ等	<table border="0"> <tr> <td data-bbox="616 1635 692 1662">保温材</td> <td data-bbox="756 1635 1410 1738"> <input type="checkbox"/> グラスウール () <input type="checkbox"/> ロックウール () <input type="checkbox"/> ポリスチレンフォーム () </td> </tr> <tr> <td data-bbox="616 1747 692 1774">外装材</td> <td data-bbox="756 1747 1410 1877"> <input type="checkbox"/> ステンレス鋼板 <input type="checkbox"/> 溶融アルミニウム亜鉛鉄板 <input type="checkbox"/> カラー亜鉛鉄板 <input type="checkbox"/> その他 () () </td> </tr> </table>	保温材	<input type="checkbox"/> グラスウール () <input type="checkbox"/> ロックウール () <input type="checkbox"/> ポリスチレンフォーム ()	外装材	<input type="checkbox"/> ステンレス鋼板 <input type="checkbox"/> 溶融アルミニウム亜鉛鉄板 <input type="checkbox"/> カラー亜鉛鉄板 <input type="checkbox"/> その他 () ()										
保温材	<input type="checkbox"/> グラスウール () <input type="checkbox"/> ロックウール () <input type="checkbox"/> ポリスチレンフォーム ()														
外装材	<input type="checkbox"/> ステンレス鋼板 <input type="checkbox"/> 溶融アルミニウム亜鉛鉄板 <input type="checkbox"/> カラー亜鉛鉄板 <input type="checkbox"/> その他 () ()														
3) ダクト	<p>外気取入用ダクト及び排気用ダクトは保温を行う</p> <table border="0"> <tr> <td data-bbox="616 1957 692 1984">保温材</td> <td data-bbox="756 1957 1410 2056"> <input type="checkbox"/> グラスウール () <input type="checkbox"/> ロックウール () <input type="checkbox"/> ポリスチレンフォーム () </td> </tr> </table>	保温材	<input type="checkbox"/> グラスウール () <input type="checkbox"/> ロックウール () <input type="checkbox"/> ポリスチレンフォーム ()												
保温材	<input type="checkbox"/> グラスウール () <input type="checkbox"/> ロックウール () <input type="checkbox"/> ポリスチレンフォーム ()														

○ その他 ()

外装材 ｲ) 屋内露出
 ○ 合成樹脂カバー ○ カラー亜鉛鉄板
 ○ アルミニウム板 ○ ステンレス鋼板
 ○ アルミガラスクロス ○ その他 ()

㇑) 機械室・倉庫
 ○ アルミガラスクロス ○ カラー亜鉛鉄板
 ○ アルミニウム板 ○ ステンレス鋼板
 ○ 合成樹脂カバー ○ その他 ()

㇒) 天井内・パイプシャフト内及び空隙壁中
 ○ アルミガラスクロス
 ○ その他 ()

㇓) 外気取入用ダクト及び排気用ダクト
 ○ アルミガラスクロス
 ○ その他 ()

範囲 ｲ) 外気取入用ダクト ○ 全て
 ㇑) 排気用ダクト ○ 全て
 ○ その他 (外壁より1.5m以内)

4) 機器類
 ○ 冷温水ヘッダー ○ 冷水ヘッダー ○ 冷温水タンク
 ○ 冷水タンク ○ 温水タンク ○ 蒸気ヘッダー
 ○ 温水ヘッダー ○ 熱交換器 ○ 還水タンク
 ○ 膨張タンク

保温材 ○ グラスウール ○ ロックウール
 ○ その他 ()

外装材 ○ カラー亜鉛鉄板 ○ 溶融アルミニウム亜鉛鉄板
 ○ ステンレス鋼板 ○ その他 ()

5) 冷媒被覆銅管

	液管	ガス管	結露の恐れあり ()
被覆厚			

6) 煙道
 排気筒
 保温材 ● ロックウール ○ その他 ()
 外装材 ● カラー亜鉛鉄板 ○ 溶融アルミニウム亜鉛鉄板
 ○ ステンレス鋼板 ○ その他 ()

7) 消音内貼り
 施工方法は標準仕様書の当該事項による
 施工個所は図示したダクト及びチャンバー類とする
 使用材料 ○ グラスウール ○ その他 ()
 厚さ ○ 25mm ○ 50mm
 消音内貼チャンバーの寸法は外法寸法とする

ラス押え ○ 有 () ○ 無

▶ 3. 塗装
 ｲ. 屋内露出は、室内環境対応・配慮形塗料又は水性系塗料の合成樹脂調合ペイントとする。但し煙道、煙突は耐熱塗装とする
 ㇑. 裸管 ● 合成樹脂調合ペイント ○ アルミニウムペイント
 ・蒸気管 機械室内は、アルミニウムペイント
 居室及び隠ぺいは、さび止めペイント

㇒. 支持金物及び架台類
 ● 合成樹脂調合ペイント ○ アルミニウムペイント

㇓. ダクト * 合成樹脂調合ペイント

㇔. その他 ○ アルミニウムペイント ○ 調合ペイント

▶ 4. ｸﾞ外及びｸﾞ外付属品
 1) ダクト
 方式 ○ 低圧 ○ 高圧1 ○ 高圧2
 ○ その他 ()
 工法 ○ アンクルフランジ ()
 ○ コーナーボルト ()

	(<input type="radio"/> 共板フランジ <input type="radio"/> スライドオンフランジ)
	<input type="radio"/> 差し込み
種別	<input type="radio"/> 鉄板 ()
	<input type="radio"/> スパイラルダクト ()
	<input type="radio"/> 硬質塩化ビニル管 (VU) ()
	<input type="radio"/> 矩形 (アングルダクト工法) ()
	<input type="radio"/> その他 ()
2) チャンバー等	<p>イ. 外壁に面するガラリに直接取付けるチャンバー、ホッパーには排水を設ける</p> <p>ロ. シーリングディフューザーには下記の接続ボックスを設ける</p> <p>イ) ネック径200φ以下 : 400×400×250H</p> <p>ロ) // 200φをこえるもの : 500×500×300H</p> <p>ハ. 線状吹出口には、下記の接続ボックスボックスを設ける</p> <p>イ) BL-S、BL-D : 200×(長さ+100)×300H</p> <p>ロ) BL-T、BL-K : 250×(長さ+100)×300H</p> <p>ニ. 天井付制気口には、特記なき場合(制気口寸法+100)×250Hの接続ボックスを設ける</p>
3) 防雪フード	<p>イ. 材質 ステンレス鋼板製 <input type="radio"/> SUS430</p> <p><input checked="" type="radio"/> SUS304</p> <p><input type="radio"/> その他 ()</p>
	ロ. 板厚 () mm
4) 排気フード	<p>イ. 幕板 <input type="radio"/> 本工事 ステンレス鋼板製 <input type="radio"/> SUS430</p> <p><input type="radio"/> SUS304</p> <p><input type="radio"/> 別途工事 <input type="radio"/> () mm</p>
5) セルフード	<input type="radio"/> 丸形フード <input type="radio"/> 防風形フード <input type="radio"/> その他 ()
	材質 <input type="radio"/> ステンレス製
	<input type="radio"/> アルミニウム製
	<input type="radio"/> その他 ()
6) 風量測定口	<p>取付箇所</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 特記した風量調整ダンパーの上流又は下流 2. 送排風機、空調機に近接した風道の部分 3. 外気取入風道の部分 4. その他指定部分
▷ 5. 制気口	
1) 吹出口・吸込口	<p>材質 <input type="radio"/> 樹脂製 ()</p> <p><input type="radio"/> 鋼板製</p> <p><input type="radio"/> アルミニウム材製</p> <p><input type="radio"/> その他 ()</p>
▶ 6. 貫通部の処理	
1) 穴埋補修	<p>穴埋補修は無収縮モルタル又はロックウール保温材で補修する</p> <p>なお、ロックウール保温材の場合は脱落防止の措置を施す</p>
2) 防火区画の処理	<p>イ. 不燃材料の配管で貫通する場合は、その隙間をモルタル又はロックウール保温材で埋める</p> <p>ロ. 不燃材料以外の配管で貫通する場合は、建築基準法令に適合する工法とする</p>
▶ 7. 吊り及び支持	<p>ハ. スパンドレルについてセルフフードは抵触しない事</p> <p>イ. インサート金物は、吊りボルトに対し、適正なサイズのものを選定する</p> <p>ロ. 断熱材使用箇所におけるインサート金物は、断熱インサート金物とする</p> <p>ハ. 吊り用ボルトは、ピット内及び床下は被覆全ねじ又はステンレス鋼(SUS304)とする径は標準仕様書(第2編 第2章の2.6.3)による</p>

▶ 8. スリーブ

イ. 標準仕様書（第2編 第2章の2.2.27）による
 ロ. 外壁の地中部分で水密を要する部分のスリーブ
 「貫通させる配管の外径より40mm程度大きなものを採用すること」
 ※つば付き鋼管スリーブ
 ○ 非加硫ブチルゴム系止水材（使用部位： ）

▶ 9. はつり及び穴あけ
 （改修工事等）

既存のコンクリート床、壁等の配管貫通部の穴あけは、原則として、ダイヤモンドカッターによる

口径は、原則として管の外径（保温されるものにあつては保温材の厚さを含む）より20mm程度大きなものとする

▶ 10. インサート
 及びアンカー

改修工事において、既存のインサート及びアンカーボルトは、原則として、使用しない。やむを得ず既存のインサート及びアンカーを再使用する場合は、状態及び強度を確認し、十分に清掃を行ってから使用する。
 また、引張強度の確認試験については、監督員と協議する

機器の固定

アンカーの耐震計算を行う機器等

* 監督員と協議する

○ 無し

確認試験

イ. あと施工アンカーの性能確認試験 ● 行う * 行わない

ロ. あと施工アンカーの施工後確認試験

* 行う 確認強度は監督員と協議する

○ 行わない

▶ 11. 耐震措置

「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」（日本建築センター発行）に基づき、耐震施工を行う

● 一般の施設 ○ 特定の施設 ○ 甲類 ○ 乙類

(1) 局部震度法による建築設備機器（水槽類を除く）の設計用標準水平震度（Ks）

設置場所	耐震安全性の分類			
	特定の施設		一般の施設	
	重要機器	一般機器	重要機器	一般機器
上層階屋上 及び塔屋	2.0	1.5	1.5	1.0
	(2.0)	(2.0)	(2.0)	(1.5)
中間階	1.5	1.0	1.0	0.6
	(1.5)	(1.5)	(1.5)	(1.0)
1階及び地下 階	1.0	0.6	0.6	0.4
	(1.0)	(1.0)	(1.0)	(0.6)

(注) () 内の数値は防振支持機器の場合に適用する

(2) 局部震度法による水槽類の設計用標準水平震度（Ks）

設置場所	耐震安全性の分類			
	特定の施設		一般の施設	
	重要水槽	一般水槽	重要水槽	一般水槽
上層階屋上 及び塔屋	2.0	1.5	1.5	1.0
中間階	1.5	1.0	1.0	0.6
1階及び地下 階	1.5	1.0	1.0	0.6

重要機器は、次のいずれかに該当するものをいう。また、一般機器と

▶ 12. 総合試運転調整等

は、重要機器以外をいう

イ. 災害応急対策活動に必要な施設等において、施設目的に応じた活動を行うために必要な設備機器

ロ. 危険物を貯蔵又は使用する施設において、危険物による被害を防止するための設備機器

ハ. 避難、消火等の防災機能を果たす設備機器

二. 火災、水害、避難の障害等の二次災害を引き起こす恐れのある設備機器

ホ. その他これらに類する機器

重要水槽とは重要機器として扱う水槽類、一般水槽とは一般機器として扱う水槽類を示す

また、水槽類にはオイルタンク等を含む

○ 風量調整 ● 水量調整 ○ 室内外空気の温度

○ 室内外空気の湿度 ○ 室内気流及びじんあいの測定

○ 騒音の測定 ○ 飲料水の水質の測定

総合試運転調整完了後、機器等の運転状態の記録及び系統ごとに各測定結果をまとめた測定報告書を監督員に提出する

測定報告書には、測定器名、測定日時及び測定者名を記入し、測定点を示した図面を添付する

▶ 13. 仮設工事

1) 工事用水

構内既存の施設 ○ 利用できる (* 有償 ○ 無償)

* 利用できない

2) 工事用電力

構内既存の施設 ○ 利用できる (* 有償 ○ 無償)

* 利用できない

3) 足場

別契約の関係請負者の定置する足場、栈橋の類は、無償で使用できる

4) 交通誘導警備員

建設機械及び車両等の出入りの際には、出入口に交通誘導警備員を配置し、一般通行者及び一般車両の安全を確保すること

なお、配置位置及び交通誘導警備員の区分は、次による

配置位置：図面による

警備員詰所：(○ 設ける ● 設けない)

表 工事現場の位置と交通誘導警備員区分

工事現場の出入り口を設ける道路（路線）	交通誘導警備員区分
市街地（DID）内の路線	交通誘導警備員A
北海道（各方面）公安委員会告示による認定路線	
上記以外の路線	交通誘導警備員B

市街地内の路線及び認定路線の場合は、交通誘導警備業務を行う場所ごとに交通誘導警備員Aを1人以上配置する。

交通誘導警備員Aを配置できない場合で、やむを得ず受注者自らが交通誘導を行う場合は、監督員と協議すること。

5) 指定仮設

▶ 14. 土工事

1) 管周囲の保護

* 山砂の類 ○ 良質土 ○ その他

2) 埋戻し土

* 掘削土の良質土 ○ 山砂の類

3) 建設発生土等の処理

場外搬出（約 km 捨て場所 ）

（捨て場所住所： ）

（管理者： ）

捨て土均し（ ● 有り ○ 無し）（埋戻し土流用土）

● 構内敷均し ● 構内指示の場所に堆積（図示による）

4) 山留め施工

▷ 15. 地業工事

1) 砂利地業

▷ 16. コンクリート工事

1) コンクリート強度

▶ 17. 使用機材

▶ 18. 型番等

○ 構外敷均し
 ○ 処理費 (* 有償 ○ 無償)
 ○ 有り (工法 :) ● 無し

* 再生クラッシャーラン ○ 切込砂利 ○ 切込砕石
 砂利地業の厚さ * 100mm以上
 ○ mm ()
 JIS A5001 (道路用砕石) C-40程度

機器類基礎等のコンクリート強度、鉄筋

強 度	○ 16N/mm2	○ 18N/mm2	○ 21N/mm2
スランプ	cm	cm	cm
施工箇所			

鉄筋種別	異形鉄筋 ○ SD295 ○ SD345 ○ SD390
補強筋	壁開口部 ○ 基準配筋による ○ 構造図面による
	床開口部 ○ 基準配筋による ○ 構造図面による
	その他 ○ 基準配筋による ○ 構造図面による

使用する機材は「北海道建設部建築局建築整備課 令和6年度版 設備機材等指定名簿」を参考とする。

図面中の機器表等の型番は参考型番とし、同等品以上とする

○ 空気調和設備

● 暖房設備

項目	特記事項
▶ 1. エネルギー源	○ 重油 ○ 灯油 ● ガス(都市ガスの場合 ● 低圧 ○ 中圧)
▶ 2. 暖房方式	○ 電気 ○ その他 ()
▶ 3. 主要熱源機器及び付属機器	○ 蒸気 ● 温水 ○ 温風 ○ 電気 ○ 遠赤外線 ○ 放射 ○ その他 ()
▷ 4. ばい煙濃度計	図内機器表による 容量等の表示、機器類の能力、容量等(電動機出力は除く)は、原則として表示された数値以上とする
▷ 5. 煤じん量測定口	○ 設けない ○ 設ける
▷ 6. 放熱器等	○ 設けない ○ 設ける (煙道直線部に100φ以上のフランジ蓋止とする)
	種別 ○ 鋳鉄製放熱器 ○ パネルヒーター ○ ファンコイルユニット ○ ヒートポンプユニット ○ ファンコンベクター ○ ユニットヒーター ○ パッケージエアコン ○ FF暖房機 ○ 電気ヒーター ○ 遠赤外線暖房機 ○ コンベクター ○ ベースボードヒーター ○ 床暖房 (○ 温水 ○ 電気) ○ ロードヒーティング (○ 温水 ○ 電気) ○ その他 ()

○ 冷房設備

● 換気設備

<ul style="list-style-type: none"> ▶ 1. 給水方式 ▷ 2. 屋外給水引き込み管 ▷ 3. 量水器 ▷ 4. 量水器柵 ▷ 5. 量水器集中検針盤 計装工事区分 ▷ 6. 量水器集中検針盤 試験調整工事区分 ▷ 7. 受水タンク ▷ 8. 給水装置 ▷ 9. その他 	<ul style="list-style-type: none"> ● 水道直結直圧方式 ○ 水道直結増圧方式 ○ ポンプ直送方式 (○ 上水 ○ 井水) ○ 高置タンク方式 (○ 上水 ○ 井水) 既設配水管 (○ 分水新設 ○ 既設分水以降接続) 既設敷地内給水引き込み管 (○ 分水新設 ○ 既設分水以降接続) 配水管新設 (○ 負担金 ○ 専用 ○ 布設替) ○ 借受品 ○ 新品購入 (水道管理者指定品) ○ 水道管理者指定品 ○ 図内規格品 * 集中検針盤から量水器までの計装配管配線は本工事 ○ その他 () * 集中検針盤から量水器までの通信状況確認は本工事 ○ その他 () イ. ○ 上水用 () ○ 本工事 ○ 別途工事 ロ. ○ 井水用 () ○ 本工事 ○ 別途工事 ハ. 制御方法 フロートレススイッチ ボールタップ・定水位調整弁 その他 () ニ. 警報 ○ 満水 ○ 減水 ○ 低水位遮断 ○ 故障 イ. 給水ポンプ <ul style="list-style-type: none"> ○ 揚水用ポンプ <ul style="list-style-type: none"> ○ 床置型 ○ 水中型 ○ 水道用直結加圧形ポンプユニット ○ 小形給水ポンプユニット <ul style="list-style-type: none"> ○ 床置型 ○ 水中型 ○ 吐出し圧力一定制御 ○ 末端圧力推定制御 ○ その他 () ロ. 圧力タンク <ul style="list-style-type: none"> ○ 自動空気補給式 ○ 隔膜式 ○ その他 () ハ. 高置タンク ○ FRP製 () ○ その他 () ニ. 制御方法 ○ フロートレススイッチ ○ 圧力スイッチ ○ その他 () ホ. 警報 <ul style="list-style-type: none"> ○ 満水 ○ 減水 ○ 低水位遮断 ○ 故障 ○ ()
---	--

<input type="radio"/>	排水設備
-----------------------	-------------

<input checked="" type="radio"/>	給湯設備
----------------------------------	-------------

項 目	特 記 事 項
▶ 1. 給湯方式	<ul style="list-style-type: none"> ● 給湯ボイラー (○ 単独 ● 暖房併設) ○ 熱交換器 ○ 貯湯タンク ○ ガス湯沸器 (○ 貯湯式 ○ 瞬間式 ○ 別途リース品対応) ○ 電気湯沸器 (○ 貯湯式 ○ 瞬間式)

	<input type="radio"/> 潜熱回収型ガス給湯暖房機（リース） <input type="radio"/> その他（ ）
--	---

衛 生 器 具

消 火 設 備

ガ ス 設 備

項 目	特 記 事 項
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 1. 種類 ▶ 2. 機器 ▶ 3. 施工 ▶ 4. ガス漏れ警報器 ▶ 5. ガス漏れ警報設備 計装工事区分 	<ul style="list-style-type: none"> ● 都市ガス <input type="radio"/> 液化石油ガス （ <input type="radio"/> ホンパ供給 <input type="radio"/> バル付供給 ） ○ その他（ ） 図内機器表による ● 都市ガス……………ガス事業者の責任施工とする ○ 液化石油ガス……………標準仕様書第6編第3章による ○ その他のガス……………高圧ガス保安法の規定に基づく ● 有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/> 別途リース品対応 都市ガスの場合 <ul style="list-style-type: none"> * 警報器用基台(基台共) からガスメーターまでの配管配線は本工事 ○ その他（ ） 液化石油ガスの場合 <ul style="list-style-type: none"> * 警報器用コンセント(別途)からガスメーターまでの配管配線は本工事 ○ その他（ ）

厨 房 機 器

環 境 配 慮 改 修 工 事

項 目	特 記 事 項
▶ 1. 石綿含有建材の除去工事	<p>改修工事標準仕様書（建築工事編）第9章及び以下による。 施工調査 (9.1.1)</p> <p>建材の石綿含有調査は、次による。 施工調査の結果を書面により監督員へ報告する。 施工調査の結果、設計図書等と異なる場合は、監督員と協議する。</p> <p>(1) 調査範囲 (9.1.1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 分析調査 _____ヶ所 調査部位 _____ ○ 分析調査済：含有建材等は図面による。 分析結果 <input type="radio"/> 石綿含有 <input type="radio"/> 石綿非含有 分析方法は、JIS A1481「建材製品中のアスベスト含有率測定法」とする。 ○ 既存の石綿含有建材の調査報告書の貸与 <input type="radio"/> 貸与 <input type="radio"/> 無 <p>(2) 分析方法 (9.1.1)</p> <ul style="list-style-type: none"> * JIS A 1481-2（建材製品中の含有率測定方法－第2部：試料採取及び石綿含有の有無を判定するための定性分析方法）とする。 ○ _____

	<p>(3) 石綿含有建材除去後の仕上げ <input type="radio"/> 図示 (9.1.1)</p> <p>(4) 石綿粉じん濃度測定 * 行う <input type="radio"/> 行わない (9.1.1)</p> <p>測定方法 <input type="radio"/> 図示 <input type="radio"/> _____</p> <p>測定時期 <input type="radio"/> 図示 <input type="radio"/> _____</p> <p>測定場所 <input type="radio"/> 図示 <input type="radio"/> _____</p> <p>測定箇所数 <input type="radio"/> 図示 <input type="radio"/> _____</p>
<p>▶ 2. 除去工事共通事項</p>	<p>(1) 処理を行う吹付け材の種類及び処理方法 種類 <u>外壁面</u> 処理方法 * 除去 <input type="radio"/> 封じ込め <input type="radio"/> 囲い込み (処理を行う範囲は図示)</p> <p>(2) 処理を行う保温材等の種類及び処理方法 種類 <u>ディスクグラインダー工法</u> 処理方法 * 除去 <input type="radio"/> 封じ込め <input type="radio"/> 囲い込み (処理を行う範囲は図示)</p>
<p>▶ 3. 石綿含有吹付け材の除去等</p>	<p>(1) 石綿含有吹付け材の除去方法 (9.1.3) * 改修標準仕様書9.1.3(2)(7)による ● <u>外壁面</u></p> <p>(2) 除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止措置及び梱包 (9.1.1 9.1.3) ① 飛散防止措置 * 湿潤化 <input type="radio"/> 固化 ② 梱包 * 密封処理(二重袋梱包) <input type="radio"/> _____</p> <p>(3) 除去した石綿含有吹付け材等の処分方法 (9.1.3) ● 埋め立て処分 * 管理型最終処分場 場所: <u>芽登アウングル処分場</u> <input type="radio"/> _____ 場所: _____ <input type="radio"/> 中間処理 * 無害化処理施設 場所: _____ <input type="radio"/> _____ 場所: _____</p>
<p>▶ 4. 石綿含有保温材等の除去</p>	<p>(1) 石綿含有保温材等の除去方法 (9.1.4) 種類: <u>グローブバック工法</u> 除去方法 <input type="radio"/> 切断又は破碎 <input type="radio"/> 手ばらし ● 切断 <input type="radio"/> 作業場の隔離 <input type="radio"/> 本体搬出 種類: <u>煙道及びポンプ継手部分</u> 除去方法 <input type="radio"/> 切断又は破碎 ● 手ばらし <input type="radio"/> 切断 <input type="radio"/> 作業場の隔離 ● 本体搬出</p> <p>(2) 作業場の隔離 * 行う <input type="radio"/> 行わない (9.1.4)</p>
<p>▷ 5. 石綿含有成形板等の除去</p>	<p>(1) 石綿含有成形板の種類 (9.1.5) 種類 _____ 種類 _____ 種類 _____</p> <p>(2) 石綿含有せっこうボードの石綿含有吹付け材等の処分 (9.1.5) <input type="radio"/> 埋め立て処分 * 安定型最終処分場 場所 _____</p> <p>(3) 石綿含有せっこうボードを除く石綿含有吹付け材等の処分 (9.1.5) <input type="radio"/> 埋め立て処分 * 安定型最終処分場 場所 _____ <input type="radio"/> _____ 場所 _____ <input type="radio"/> 中間処理 * 無害化処理施設 場所 _____ <input type="radio"/> _____ 場所 _____</p>

○	そ の 他
---	-------

- 第 2 章 仮 設 工 事
- 第 3 章 土 工 事
- 第 4 章 地 業 工 事
- 第 5 章 鉄 筋 工 事
- 第 6 章 コンクリート工事
- 第 7 章 鉄 骨 工 事
- 第 8 章 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事
- 第 9 章 防 水 工 事
- 第 10 章 石 工 事
- 第 11 章 タイル工事
- 第 12 章 木 工 事
- 第 13 章 屋根工事及びとい工事
- 第 14 章 金 属 工 事

項 目	特 記 事 項																																				
▷ 1. アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理	(1) 表面処理 (14.2.1) (表14.2.1) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">種別</th> <th style="width: 55%;">施行箇所 (成型板、笠木、建具以外)</th> <th style="width: 30%;">色合い等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td><input type="radio"/> AB-1種</td><td></td><td></td></tr> <tr><td><input type="radio"/> AB-2種</td><td></td><td></td></tr> <tr><td><input type="radio"/> AC-1種</td><td></td><td></td></tr> <tr><td><input type="radio"/> AC-2種</td><td></td><td></td></tr> <tr><td><input type="radio"/> BA-1種</td><td></td><td></td></tr> <tr><td><input type="radio"/> BA-2種</td><td></td><td></td></tr> <tr><td><input type="radio"/> BB-1種</td><td></td><td></td></tr> <tr><td><input type="radio"/> BB-2種</td><td></td><td></td></tr> <tr><td><input type="radio"/> BC-1種</td><td></td><td></td></tr> <tr><td><input type="radio"/> BC-2種</td><td></td><td></td></tr> <tr><td><input type="radio"/> C種</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p style="margin-left: 20px;">○ 常温乾燥形の塗装の場合 (_____)</p> (2) 陽極酸化皮膜による着色方法 * 二次電解着色 ○ 三次電解着色	種別	施行箇所 (成型板、笠木、建具以外)	色合い等	<input type="radio"/> AB-1種			<input type="radio"/> AB-2種			<input type="radio"/> AC-1種			<input type="radio"/> AC-2種			<input type="radio"/> BA-1種			<input type="radio"/> BA-2種			<input type="radio"/> BB-1種			<input type="radio"/> BB-2種			<input type="radio"/> BC-1種			<input type="radio"/> BC-2種			<input type="radio"/> C種		
種別	施行箇所 (成型板、笠木、建具以外)	色合い等																																			
<input type="radio"/> AB-1種																																					
<input type="radio"/> AB-2種																																					
<input type="radio"/> AC-1種																																					
<input type="radio"/> AC-2種																																					
<input type="radio"/> BA-1種																																					
<input type="radio"/> BA-2種																																					
<input type="radio"/> BB-1種																																					
<input type="radio"/> BB-2種																																					
<input type="radio"/> BC-1種																																					
<input type="radio"/> BC-2種																																					
<input type="radio"/> C種																																					
▷ 2. 鉄鋼の亜鉛めっき	(1) 鉄鋼の亜鉛めっき (14.2.2) (表14.2.2) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">表面処理方法</th> <th style="width: 15%;">種別</th> <th style="width: 60%;">施行箇所 (手すり、タラップ以外)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3" style="text-align: center;">溶融亜鉛めっき</td> <td><input type="radio"/> A種</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> B種</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> C種</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="text-align: center;">電気亜鉛めっき</td> <td><input type="radio"/> D種</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> E種</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> F種</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	表面処理方法	種別	施行箇所 (手すり、タラップ以外)	溶融亜鉛めっき	<input type="radio"/> A種		<input type="radio"/> B種		<input type="radio"/> C種		電気亜鉛めっき	<input type="radio"/> D種		<input type="radio"/> E種		<input type="radio"/> F種																				
表面処理方法	種別	施行箇所 (手すり、タラップ以外)																																			
溶融亜鉛めっき	<input type="radio"/> A種																																				
	<input type="radio"/> B種																																				
	<input type="radio"/> C種																																				
電気亜鉛めっき	<input type="radio"/> D種																																				
	<input type="radio"/> E種																																				
	<input type="radio"/> F種																																				

▶ 3. 軽量鉄骨天井下地	<p>(1) 野縁等の種類 (14. 4. 2) (表14. 4. 1)</p> <p>屋外 * 25型 ○ 19型 屋内 * 19型 ○ 25型</p> <p>○ 屋外の場合の形式及び寸法 (14. 4. 3)</p> <p>野縁受、つりボルト、インサートの間隔及び周辺部端からの距離</p> <p>○ 図示 ● @900以内、端より150mm以内</p> <p>野縁の間隔</p> <p>○ 図示 ● @303程度以内</p> <p>断熱インサート</p> <p>床及び壁等で内部断熱を施した面の、内面アンカーに使用</p> <p>(2) 工法 (14. 4. 4)</p> <p>○ つりボルトの間隔が900mmを超える場合</p> <p>補強方法 ○ 図示 ○ _____</p> <p>○ 天井のふところが3.0mを超える場合</p> <p>補強方法 ○ 図示 ○ _____</p> <p>○ 天井下地材における耐震性を考慮した補強</p> <p>補強箇所、補強方法 ○ 図示 ○ _____</p> <p>○ 屋外の軒、ピロティ等の天井における耐風圧性を考慮した補強</p> <p>補強箇所、補強方法 ○ 図示 ○ _____</p>
▶ 4. 軽量鉄骨壁下地	<p>(1) スタッド、ランナ等の種類 (14. 5. 3)</p> <p>* 標準仕様書 表14. 5. 1によるスタッドの高さによる区分に応じた種類</p> <p>○ 図示</p> <p>(2) スタッドの高さが5.0mを超える場合</p> <p>○ 図示 ○ _____</p> <p>(3) 出入口及びこれらに準ずる開口部の補強 (14. 5. 4)</p> <p>* 標準仕様書 14. 5. 4(5)による ○ 図示</p>
▷ 5. 金属成形板張り	<p>(1) 種別 ○ 図示 ○ _____ (14. 6. 2)</p> <p>(2) 表面処理 ○ 図示 ○ _____</p> <p>(3) 取付け用下地</p> <p>* 標準仕様書 14. 4による ○ 図示</p> <p>(4) 伸縮調整継手 (14. 6. 3)</p> <p>○ 設ける (施行箇所 ○ 図示 ○ _____)</p> <p>○ 設けない</p>
▷ 6. アルミニウム製笠木	<p>(1) 部材の種類 (14. 7. 2) (表14. 7. 1)</p> <p>○ 250形 ○ 300形 ○ 350形 ○ _____</p> <p>(2) 表面処理 種別 () 種 (14. 7. 2) (表14. 2. 1)</p> <p>色合等 ○ 標準色 (_____)</p> <p>○ 特注色 (_____)</p> <p>(3) 笠木の固定金具の工法等</p> <p>建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法</p> <p>○ 図示 ○ _____</p>

○ 第15章 左官工事

○ 第16章 建具工事

第17章 カーテンウォール

第18章 塗装工事

第19章 内装工事

項 目	特 記 事 項																																												
▷ 1. ビニル床シート張り	<p style="text-align: right;">(19.2.2)</p> <p style="text-align: center;">ビニル床シート (JIS A5705)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工部位</th> <th>種 類</th> <th>色柄</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>工 法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>* FS ○</td> <td>○ マーブル ○ フレーン</td> <td>* 2.0 ○</td> <td>○ 突付け * 熱溶接</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○</td> <td>○ マーブル ○ フレーン</td> <td>* 2.0 ○</td> <td>○ 突付け * 熱溶接</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○</td> <td>○ マーブル ○ フレーン</td> <td>* 2.0 ○</td> <td>○ 突付け * 熱溶接</td> </tr> </tbody> </table>	施工部位	種 類	色柄	厚さ (mm)	工 法		* FS ○	○ マーブル ○ フレーン	* 2.0 ○	○ 突付け * 熱溶接		○	○ マーブル ○ フレーン	* 2.0 ○	○ 突付け * 熱溶接		○	○ マーブル ○ フレーン	* 2.0 ○	○ 突付け * 熱溶接																								
施工部位	種 類	色柄	厚さ (mm)	工 法																																									
	* FS ○	○ マーブル ○ フレーン	* 2.0 ○	○ 突付け * 熱溶接																																									
	○	○ マーブル ○ フレーン	* 2.0 ○	○ 突付け * 熱溶接																																									
	○	○ マーブル ○ フレーン	* 2.0 ○	○ 突付け * 熱溶接																																									
▷ 2. ビニル床タイル張り	<p style="text-align: right;">(19.2.2)</p> <p style="text-align: center;">ビニル床タイル (JIS A5705)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工部位</th> <th>種 類</th> <th>色柄</th> <th>寸法</th> <th>厚さ (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>* KT ○</td> <td>○ マーブル ○ フレーン</td> <td></td> <td>○ 2.5 * 2.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>* KT ○</td> <td>○ マーブル ○ フレーン</td> <td></td> <td>○ 2.5 * 2.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>* KT ○</td> <td>○ マーブル ○ フレーン</td> <td></td> <td>○ 2.5 * 2.0</td> </tr> </tbody> </table>	施工部位	種 類	色柄	寸法	厚さ (mm)		* KT ○	○ マーブル ○ フレーン		○ 2.5 * 2.0		* KT ○	○ マーブル ○ フレーン		○ 2.5 * 2.0		* KT ○	○ マーブル ○ フレーン		○ 2.5 * 2.0																								
施工部位	種 類	色柄	寸法	厚さ (mm)																																									
	* KT ○	○ マーブル ○ フレーン		○ 2.5 * 2.0																																									
	* KT ○	○ マーブル ○ フレーン		○ 2.5 * 2.0																																									
	* KT ○	○ マーブル ○ フレーン		○ 2.5 * 2.0																																									
▷ 3. 特殊機能床材	<p>(1) 帯電防止床シート、帯電防止床タイル (19.2.2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工部位</th> <th>種 類</th> <th>性 能</th> <th>厚さ等 (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>帯電防止床シート</td> <td>体積抵抗値 () Ω以下</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>帯電防止床タイル</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 視覚障害者用床タイル (19.2.2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>施工部位</th> <th>種 類</th> <th>寸 法 (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">屋外</td> <td rowspan="3"></td> <td>○ 塩化ビニル系</td> <td>○ 300×300</td> </tr> <tr> <td>○ レジンコンクリート系</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>○ 磁器質タイル</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">屋内</td> <td rowspan="2"></td> <td>○ 塩化ビニル系</td> <td>○ 300×300</td> </tr> <tr> <td>○ 磁器質タイル</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 色は周囲の床材と識別しやすいものとする。</p> <p>(3) 耐動荷重性床シート (19.2.2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工部位</th> <th>種 類</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(4) 防滑性床シート、防滑性床タイル (19.2.2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工部位</th> <th>種 類</th> <th>厚さ (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(5) ビニル幅木 : (19.2.2)</p> <p>厚さ (mm) * 1.5以上 ○ _____</p> <p>高さ (mm) * 60 ○ _____</p> <p>(6) ゴム床タイル : (19.2.2)</p> <p>種類 ○ _____</p> <p>厚さ (mm) ○ _____</p> <p>(7) 接着剤 : (19.2.2) (表19.2.1)</p> <p>ホルムアルデヒド放散量 * F☆☆☆☆ ○ 規制対象外</p> <p>施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種別と施工箇所</p>	施工部位	種 類	性 能	厚さ等 (mm)		帯電防止床シート	体積抵抗値 () Ω以下			帯電防止床タイル			区分	施工部位	種 類	寸 法 (mm)	屋外		○ 塩化ビニル系	○ 300×300	○ レジンコンクリート系	○	○ 磁器質タイル		屋内		○ 塩化ビニル系	○ 300×300	○ 磁器質タイル	○	施工部位	種 類	厚さ (mm)	備考					施工部位	種 類	厚さ (mm)			
施工部位	種 類	性 能	厚さ等 (mm)																																										
	帯電防止床シート	体積抵抗値 () Ω以下																																											
	帯電防止床タイル																																												
区分	施工部位	種 類	寸 法 (mm)																																										
屋外		○ 塩化ビニル系	○ 300×300																																										
		○ レジンコンクリート系	○																																										
		○ 磁器質タイル																																											
屋内		○ 塩化ビニル系	○ 300×300																																										
		○ 磁器質タイル	○																																										
施工部位	種 類	厚さ (mm)	備考																																										
施工部位	種 類	厚さ (mm)																																											

種別 ○ _____
 施工箇所 ○ _____

(8) ゴム床タイル用接着剤： (19.2.2)
 ホルムアルデヒド放散量 * F☆☆☆☆ ○ 規制対象外
 施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種別と施工箇所

種別 ○ _____
 施工箇所 ○ _____

▷ 4. 工法

(1) 標準仕様書19.2.3以外の下地工法 (19.2.3)
 ○ 図示 ○ _____

▷ 5. カーペット敷き

(1) 織じゅうたん (19.3.2)(表19.3.1)(表19.3.2)

該当	種別	織り方	パイルの形状	帯電性
○	○ A種	ウルトン ダブルフェイス アキスイスター	○ ループ	○ 適用する (性能： * 人体帯電圧3kV 以下 ○ ○ 適用しない
	○ B種		○ カット	
	* C種		○ 併用	

(2) タフテッドカーペット (19.3.2)(表19.3.2)

該当	パイルの形状	パイル長	帯電性	工法
○	○ ループ		○ 適用する (性能： * 人体耐電圧3kV 以下 ○ ○ 適用しない	○ グリップ * 全面接着
	○ カット			
	○ 併用			

(3) タイルカーペット (19.3.2)(表19.3.2)

該当	種類	パイルの形状	寸法	総厚さ
○	* 第一種	* ループ	* 500mm角	* 6.5mm
	○ 第二種	○ カット	○	○
		○ 併用		

(4) 下敷き材： * 第2種2号 ○ _____ (19.3.2)
 * 呼び厚さ8mm ○ _____

(5) 見切り、押さえ金物の材質、種類、形状：図示 (19.3.2)

(6) 接着剤： (19.3.2)

ホルムアルデヒド放散量 * F☆☆☆☆ ○ 規制対象外

(7) 織りじゅうたんの接合方法 (19.3.3)

* ヒートボンド工法 ○ _____

(8) タイルカーペット全面接着工法の敷き方： (19.3.3)

平場 * 市松敷き ○ 模様流し ○ _____

階段部分 * 模様流し ○ 市松敷き ○ _____

▷ 6. 合成樹脂塗床

(1) 厚膜型塗床材(弾性ウレタン樹脂系塗床材) (19.4.3)(表19.4.4)

施工部位	区分	仕上げの種類	厚さ
	* 水系	* 平滑	
	○ 無溶剤系	○ 防滑	
	○ 溶剤系	○ つや消	
	* 水系	* 平滑	
	○ 無溶剤系	○ 防滑	
	○ 溶剤系	○ つや消	

(2) ホルムアルデヒド放散量： (19.4.2)

* F☆☆☆☆ ○ 規制対象外

(3) 厚膜型塗床材(エポキシ樹脂系塗床材) (19.4.3)(表19.4.5~7)

施工部位	区分	工法	仕上げの種類	厚さ
	* 水系 ○ 無溶剤系 ○ 溶剤系	○ 薄膜流しのべ ○ 厚膜流しのべ ○ 樹脂モルタル	○ 平滑 ○ 防滑	
	* 水系 ○ 無溶剤系 ○ 溶剤系	○ 薄膜流しのべ ○ 厚膜流しのべ ○ 樹脂モルタル	○ 平滑 ○ 防滑	

(4) ホルムアルデヒド放散量: (19.4.2)

* F☆☆☆☆ ○ 規制対象外

(5) 薄膜型塗床材(エポキシ樹脂塗床材) (19.4.3)(表19.4.8)

施工部位	区分	工法	仕上げの種類	厚さ
			* 平滑	

(6) 薄膜型塗床材のホルムアルデヒド放散量: (19.4.2)

* F☆☆☆☆ ○ 規制対象外

▷ 7. フローリング張り

(1) ○ 適用しない (19.5.5)

○ 適用する

○ フローリングボード(直張用) (表19.5.5)

樹種: * なら ○ _____

○ 複合フローリング(直張用) (表19.5.6)

種別: ○ A種 ○ B種 ○ C種

樹種: * なら ○ さくら ○ ひのき、まつ

○ フローリングブロック

樹種: _____

厚さ: _____

幅: _____

長さ: _____

(2) フローリング裏面の不陸緩和材 (19.5.5)

* 合成樹脂発泡シート

○ _____

(3) 特殊フローリング

品名	表面材の材種	仕上げ塗装
○ 屋内体育館アリーナ床(JIS A 6519)	* なら ○	
○ 柔剣道場の床(JIS A 6519)	* なら ○	

(4) フローリング及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 (19.5.2)

* F☆☆☆☆・接着剤等不使用 ○ _____

(5) 接着工法におけるフローリング裏面の緩衝材: (19.5.5)

* 合成樹脂発泡シート ○ _____

フローリングブロック

樹種	厚さ	大きさ	適用

▷ 8. 畳敷き

(19.6.2 表19.6.1)

(1) 普通畳の種別 ○ A種 ○ B種 ○ C種 * D種

D種の場合の畳床 ○ KT-I種 ○ KT-II

○ KT-K ○ KT-N

(2) 柔道畳

畳床は、JIS A 5901(畳床)の2級品とし、畳表は、柔道用レザー表地(裏地ビニロン使用)とする。

▶ 9. せっこうボード及びその他のボード張り

(1) せっこうボード及びその他のボードの種類、厚さ等
* 図示 ● t 12.5

7. ホルムアルデヒド放散量：
* F☆☆☆☆ ○ 規制対象外

(2) せっこうボードの目地工法： * 突付け工法 (19.7.3)
○ 継目処理工法
○ 目透し工法

▷ 10. 合板張り

(1) 普通合板は、「合板の日本農林規格」の規格品で、板面の品質は1・2等込みとし、難燃合板及び特殊合板は、それぞれ「難燃合板の日本農林規格」及び「特殊合板の日本農林規格」の規格品とする。

(2) 19.7.2 (c) (1) にかかわらず、防火材料の認定品の使用は指定のあったときとする。

(3) 下地の種類：図示 (19.7.3)

(4) 普通合板の種類等 (19.7.2)

表板の樹種	板面の品質	処理	厚さ (mm)
生地、透明塗料塗り * ラワン程度 ○	○	○ 防虫処理	○
不透明塗料塗り * しな程度 ○			

(5) 天然木化粧合板の規格 (19.7.2)

化粧板の樹種	処理	厚さ (mm)
○	○ 防虫処理	○

(6) 特殊加工化粧合板の規格 (19.7.2)

化粧加工の方法	表面性能	処理	厚さ (mm)
○ オーバーレイ	○	○ 防虫処理	○
○ プリント			
○ 塗装等			

(7) 合板類、MDF、パーティクルボード及び接着剤のホルムアルデヒド放散量： (19.7.2)

* F☆☆☆☆ ○ 規制対象外

(8) 合板の張付けの種類別 * B種 ○ A種

▷ 11. 壁紙張り

(1) 材料 (19.8.2)

7. 壁紙の施工部位・種類・防火性能

* 図示

イ. 壁紙のホルムアルデヒド放散量 (19.8.2)

* F☆☆☆☆ ○ 規制対象外

ウ. 素地ごしらの種別 (19.8.3)

モルタル・せっこうプラスター面 * B種 ○ A種
コンクリート・ALC面 * B種 ○ A種
せっこうボード面 * B種 ○ A種

▷ 12. 断熱・防露

(1) 共通事項 ノンフロン仕様とする。 (19.9.2)

(2) 硬質ウレタンフォーム保温板他

施工部位	の種別	材料の類別及び品質
	* (JIS A 9521) ビーズ法ポリエチレンフォーム断熱材 (EPS)	* 1号

基礎断熱 土間下敷込	○ (JIS A 9521) 押出法ポリ スチレンフォーム保温板 (XPS)	○ 3種b (表 皮付き)
	○	○
屋根外断熱	* (JIS A 9521) 押出法ポリ スチレンフォーム保温板 (XPS) ○	* 3種b (表 皮付き)
外壁・天井	* (JIS A 9521) ビーズ法ポ リスチレンフォーム断熱 材 (EPS)	○ 種 ○ 種 号
	○ (JIS A 9521) 押出法ポリ スチレンフォーム保温板 (XPS)	
	○ (JIS A 9521) 硬質ウレタ ンフォーム断熱材 (PUF)	
	○ (JIS A 9521) フェノール フォーム断熱材 (PF)	
	○	○

☆ フェノールフォーム断熱材及び張付用断熱材の接着剤

ホルムアルデヒド放散量： * F☆☆☆☆ ○ 規制対象外

※ 施工部位及び部位毎の厚さについては図面による。図面特記がない場合の各部位の厚さは、押出法ポリスチレンフォーム保温板2種bで下表の数値以上とし、他のものは、これと同等以上の断熱効果（熱伝導率0.034以下）を有する厚さとする。

地 区	道南・道央	道北・道東	施 工 範 囲
外気に接する床	* 50 ○	* 50 ○	
外気に接しない床	* 30 ○	* 30 ○	
外壁面	* 30 ○	* 40 ○	
最上階スラブ下端	* 40 ○	* 50 ○	

(3) 吹付硬質ウレタンフォーム

- ア. 外壁面の開口周辺部には、開口部枠材と外壁面保温板の隙間にウレタンフォームを吹付け、その厚さは、外壁面保温板と同等以上の断熱性能を有するものとする。
- イ. 外壁面のフォームタイの露出部分には、結露防止のためウレタンフォームを吹付ける。
- ウ. 板状断熱材を打込んだ場合で、断熱材の継目にコンクリート「のろ」が流出したり、隙間が生じた場合は、Vカットのうえ発泡ウレタン処理をする。

(4) グラスウール断熱材は、JIS A 9521（建築用断熱材）の規格品とする。

密度 * 高性能16kg/m³ ○ Kg/m³

(5) ロックウール保温材は、JIS A 9504（ロックウール保温材）またはJIS A9521（建築用断熱材）の規格品とし、密度は、保温板80Kg/m³フェルト及びマット 40Kg/m³とする。

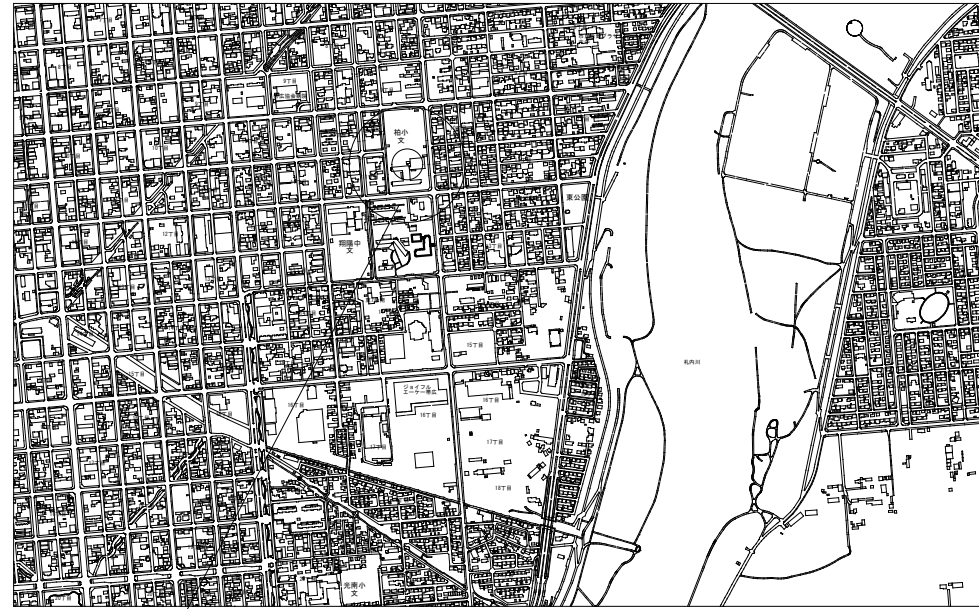
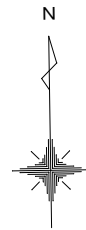
(6) ブローイング工法は、JIS A 9523 (吹込み用グラスウール断熱材) JIS A 9524 (吹込み用ロックウール断熱材) 又は JIS A 9525 (吹込み用セルローズファイバー断熱材) による。

○ 第20章 ユニット及びその他工事

○ 第21章 その他

柏小学校校舎ボイラー改修工事

図面番号	図面名	縮尺
M-00	表紙・図面リスト	—
M-01	付近見取図・配置図・工事概要	1/600
M-02	校舎棟1階平面図	1/150
M-03	系統図	NONE
M-04	ガス設備・給油設備・換気設備 平面詳細図	1/50
M-05	温水設備・給湯設備・給排水設備 平面詳細図	1/50
M-06	屋外設備図	1/300
M-07	地下オイルタンク詳細図	1/30
M-08	自動計装設備 平面詳細図	1/50
M-09	動力設備 平面詳細図	1/50
M-10	電灯設備・自火報設備・拡声設備 平面詳細図	1/50
M-11	キュービクル周り間仕切り設置 参考図	1/20

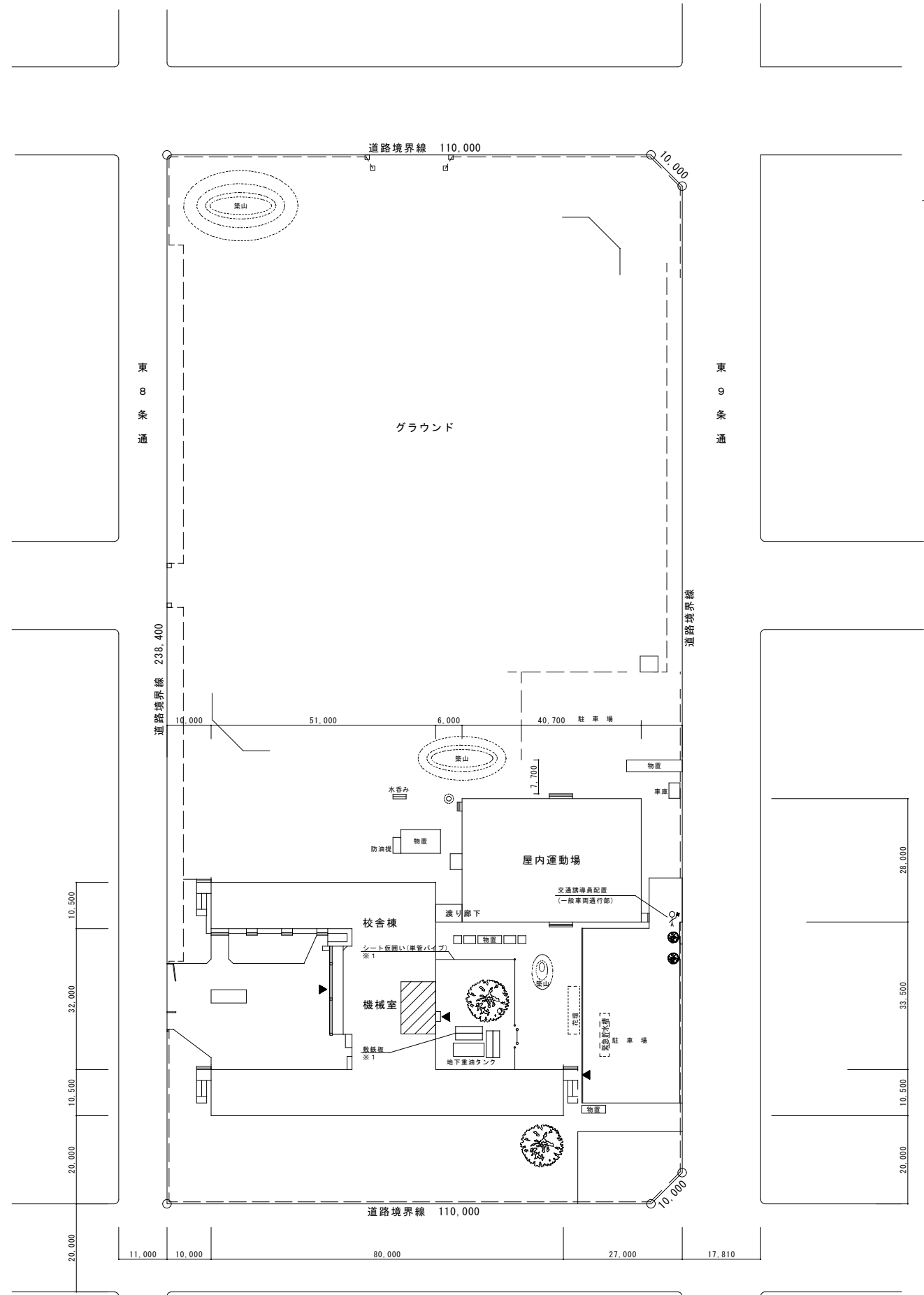
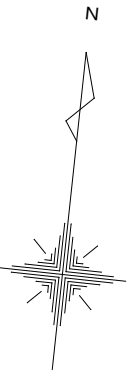


帯広市東8条南11丁目1番地

付近見取図 S=NONE

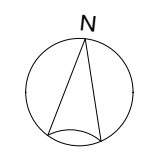
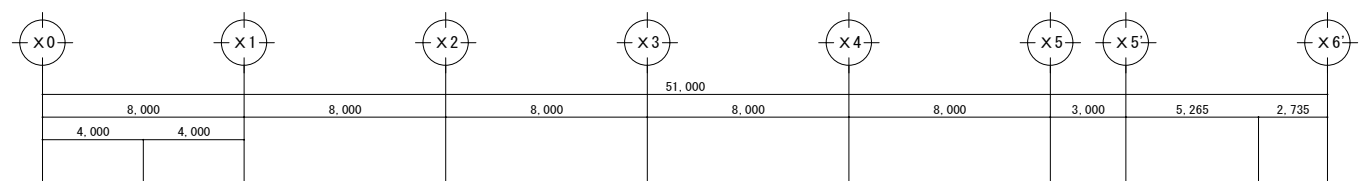
工事概要	
敷地概要	地名番地 帯広市東8条南11丁目1番地
	用途指定 第一種住居地域
	建蔽率 60%
	容積率 200%
	防火指定 指定なし
	敷地面積 30,405.536 m ²
建物概要	校舎※屋体等除く
	構造 鉄筋コンクリート造 3階建て
	用途 学校
	建築面積 2,124.89 m ²
	延べ床面積 5,990.50 m ²
工事概要	校舎棟 1階 機械室 ・校舎ボイラー改修(ガス焚←重油焚) ・屋外ガス管布設、地下重油タンク撤去

※別途発注 「柏小学校校舎屋根改修工事」と調整のうえ本工事を進めること。



屋外配置図 S=1/600

※1 別途工事の仮設材撤去後設置のこと



帯広市都市環境部都市建築室住宅営繕課

承認 設計 担当

縮尺 1/150

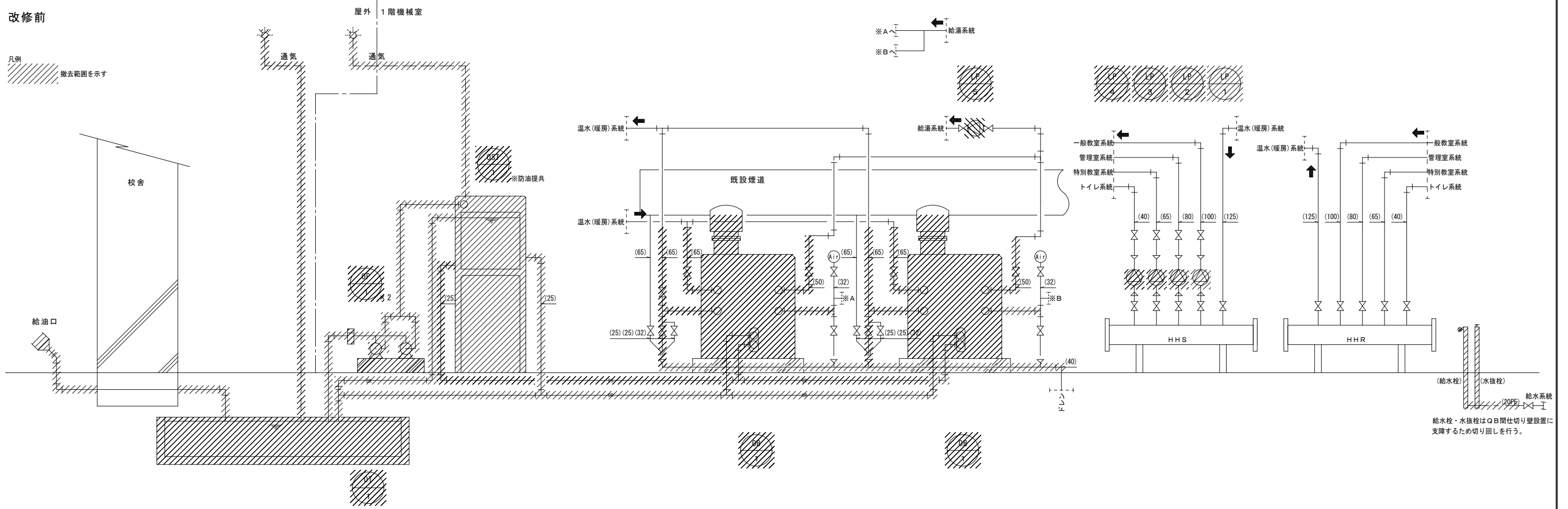
工事名称 柏小学校校舎ボイラー改修工事

設計年月日 令和6年4月

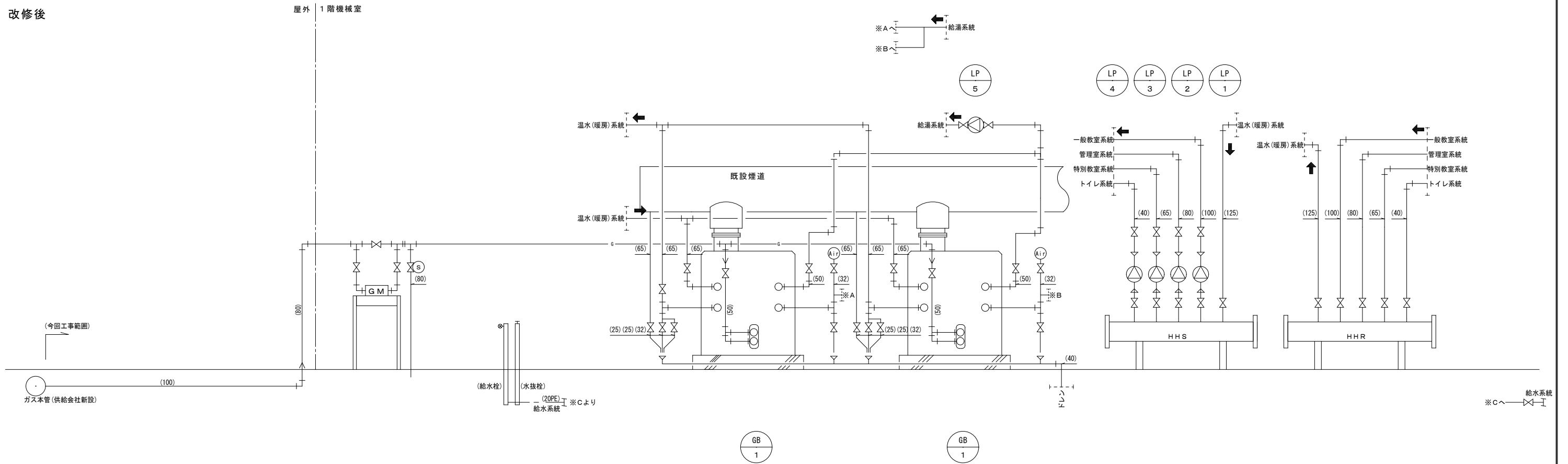
図面名称 校舎棟1階平面図

改修前

凡例
撤去範囲を示す



改修後



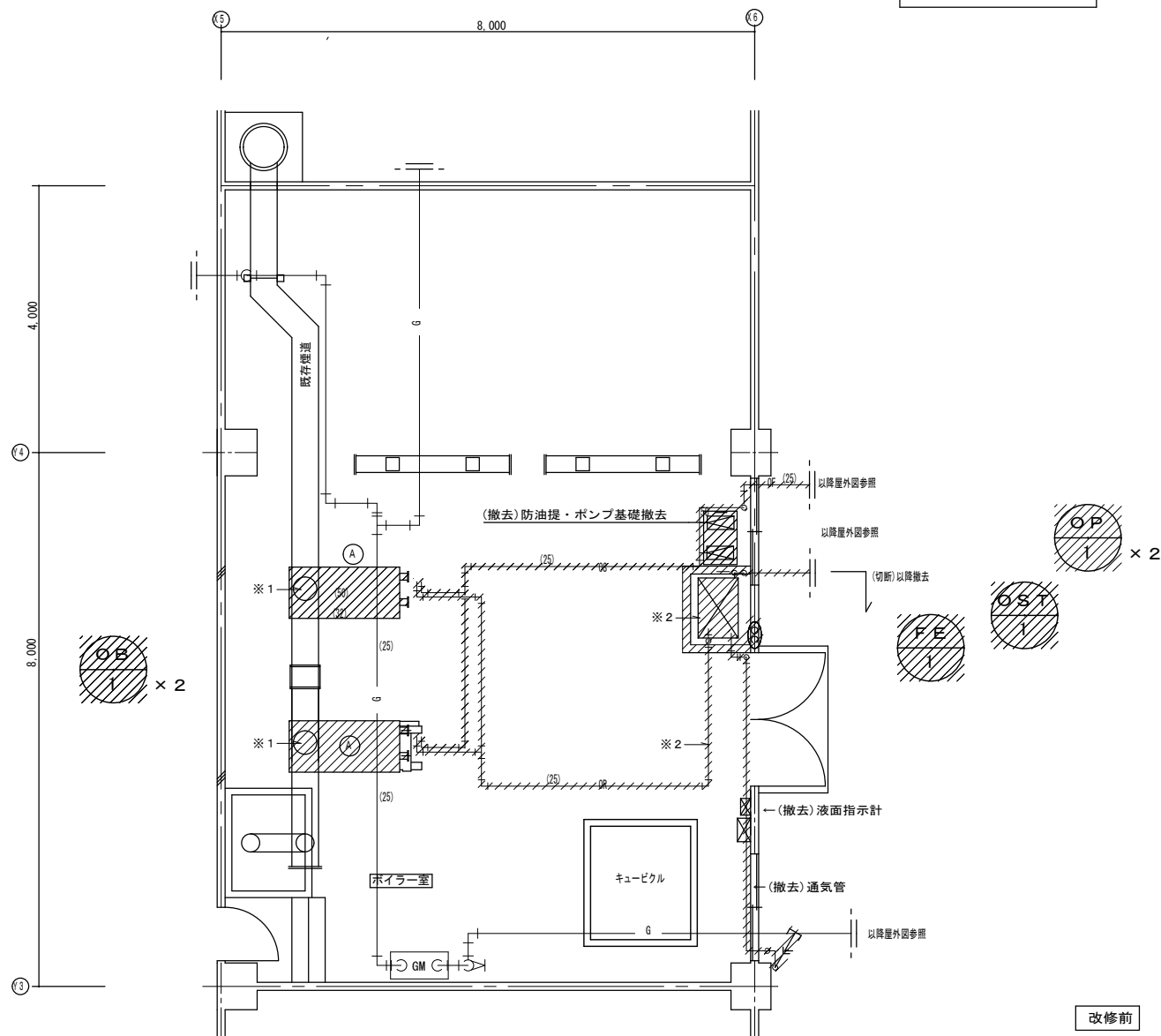
機器表 (撤去)

記号	名称	仕様	数量	電源		基礎
				相	電力(kw)	
OB-1	温水給湯暖房機	465kw/h 2回路型 真空式 A重油49.9L/h	2	3φ×200V (1相-1モーター)	1.0	
OP-1	重油移送ポンプ	25A 40L/min	2	3φ×200V	0.75	ポンプ基礎共
OST-1	オイルサービスタンク	450L 900×600×900 液面指示計 浮標付き	1			
	防油堤		1			
FE-1	有圧換気扇	防音フード付き	1	3φ×200V	0.4	

機器表

記号	名称	仕様	数量	電源		基礎
				相	電力(kw)	
GB-1	温水給湯暖房機	465kw/h 2回路型 最高圧力0.49MPa 真空式 ガス焚 燃料消費量44.8m3(N)/h(13A) 遠隔発停仕様	2	3φ×200V	1.8	参考型番:HGM-400BN
FE-1	有圧換気扇	電気式シャッター 鋼板製屋外フード 脱着網防虫網 保護ガード	1	3φ×200V	0.4	

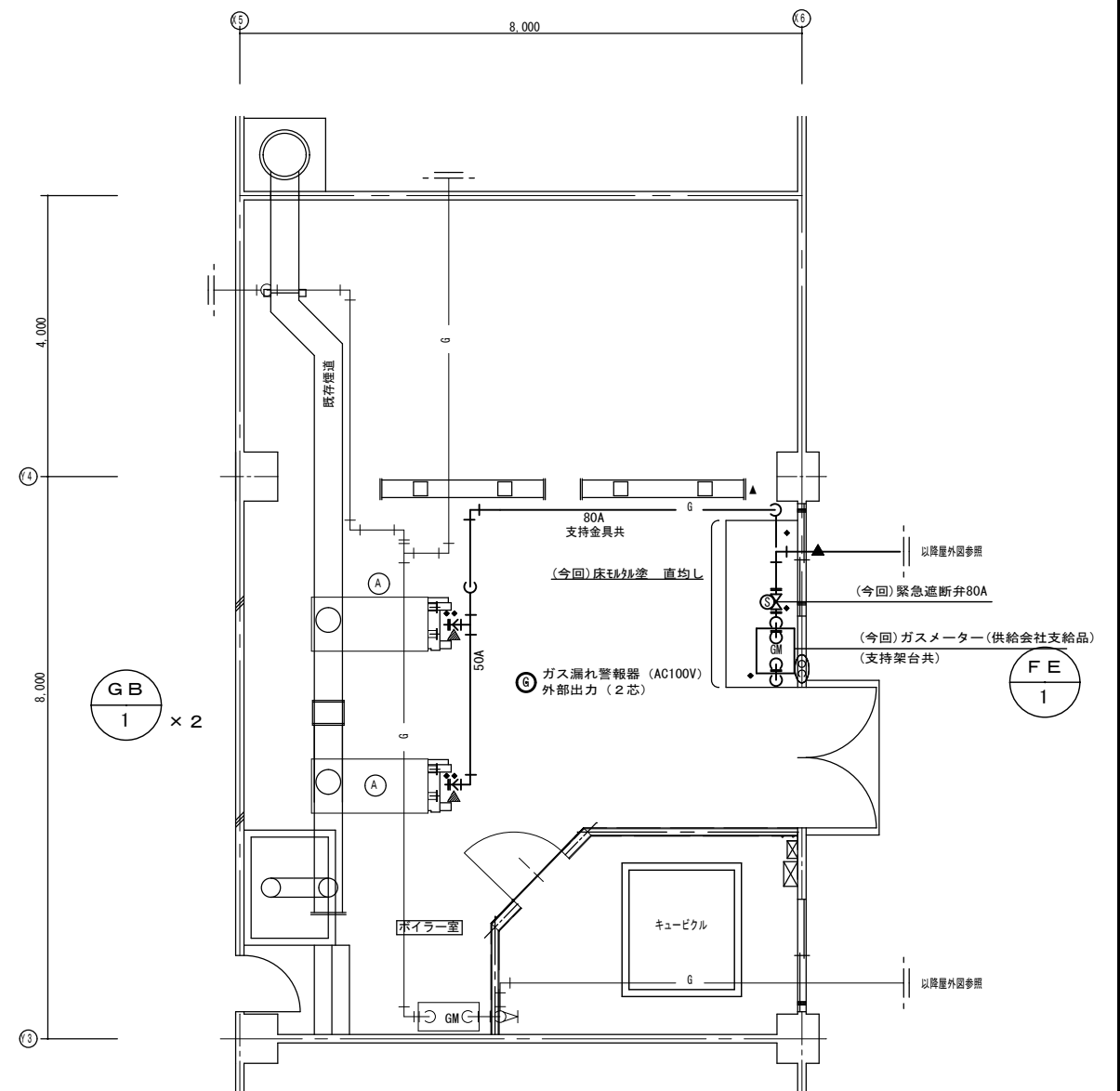
部の機器は全て撤去を示す。



- ※1 煙突接続部パッキン・グローブバック工法によりガスケット撤去
- ※2 油管及びオイルサービスタンクは中和剤処理のこと

改修前

改修後



貫通部モルタル塞ぎ(床・壁)

記号	サイズ	数
●	25φ × 150L	6
■	25φ × 200L	2
■	32φ × 120L	1

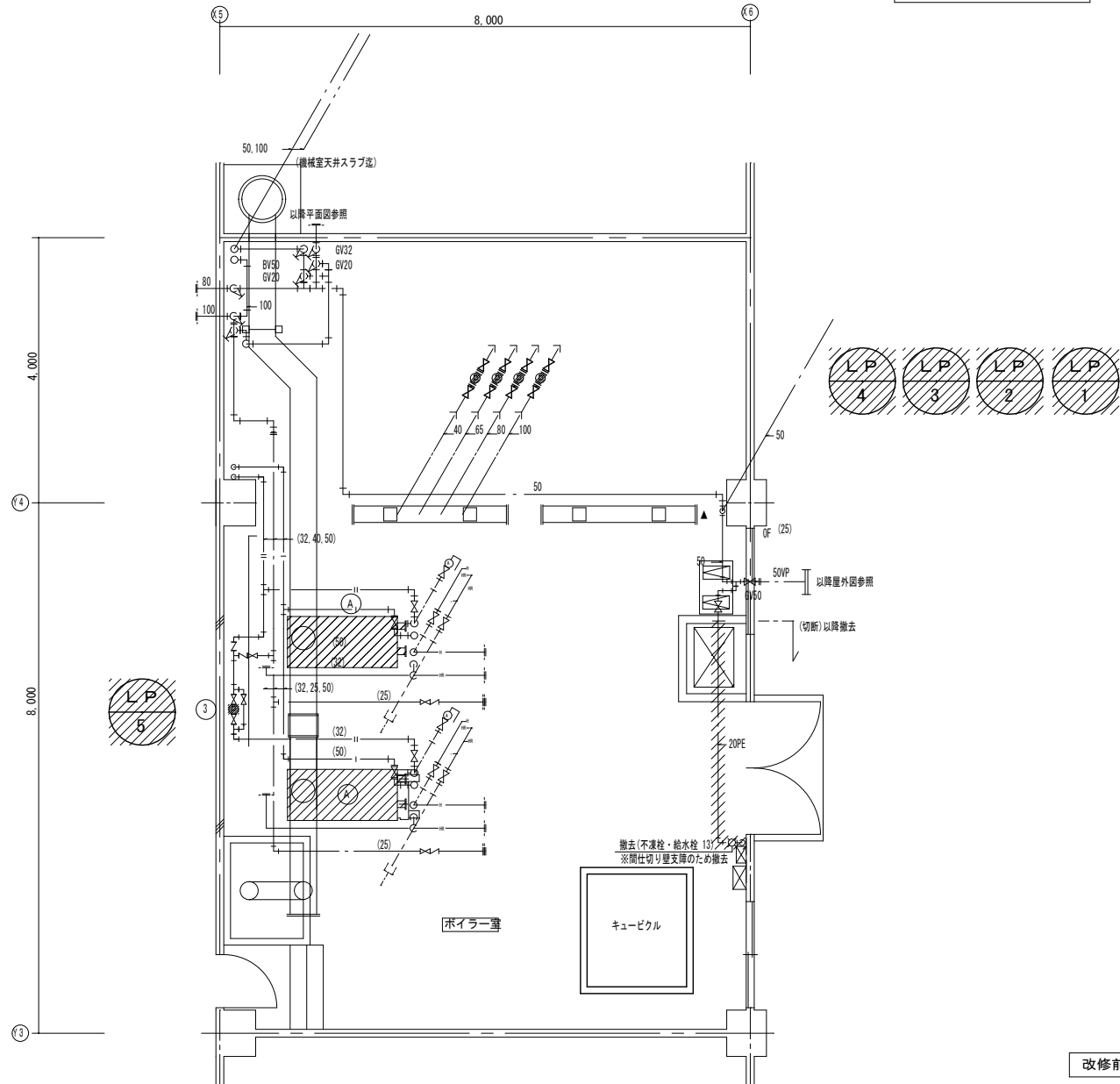
機械はつり凡例

記号	サイズ	数
▲	100φ × 350L	2
▲	125φ × 350L	1

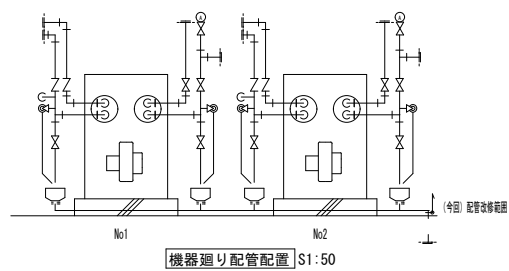
機器表 (撤去)

記号	名称	仕様	数量	電源		備考
				相	電力(kw)	
LP-1	温水循環ポンプ	80φ 400L/min・9m 80LFD51.5A 一般教室系統	1	3φ×200V	1.50	配線作業は端子箱取合いとする
LP-2	温水循環ポンプ	50φ 220L/min・9m 50LFD5.75A 管理室系統	1	3φ×200V	0.75	配線作業は端子箱取合いとする
LP-3	温水循環ポンプ	40φ 140L/min・9m 40LFD5.4A 特別教室系統	1	3φ×200V	0.40	配線作業は端子箱取合いとする
LP-4	温水循環ポンプ	32φ 50L/min・9m 32LFD5.25A トイレ系統	1	3φ×200V	0.25	配線作業は端子箱取合いとする
LP-5	給湯循環ポンプ	32φ 137L/min・4.4m 32LPS.25A 給湯系統	1	3φ×200V	0.25	配線作業は端子箱取合いとする

////// 部の機器は全て撤去を示す。



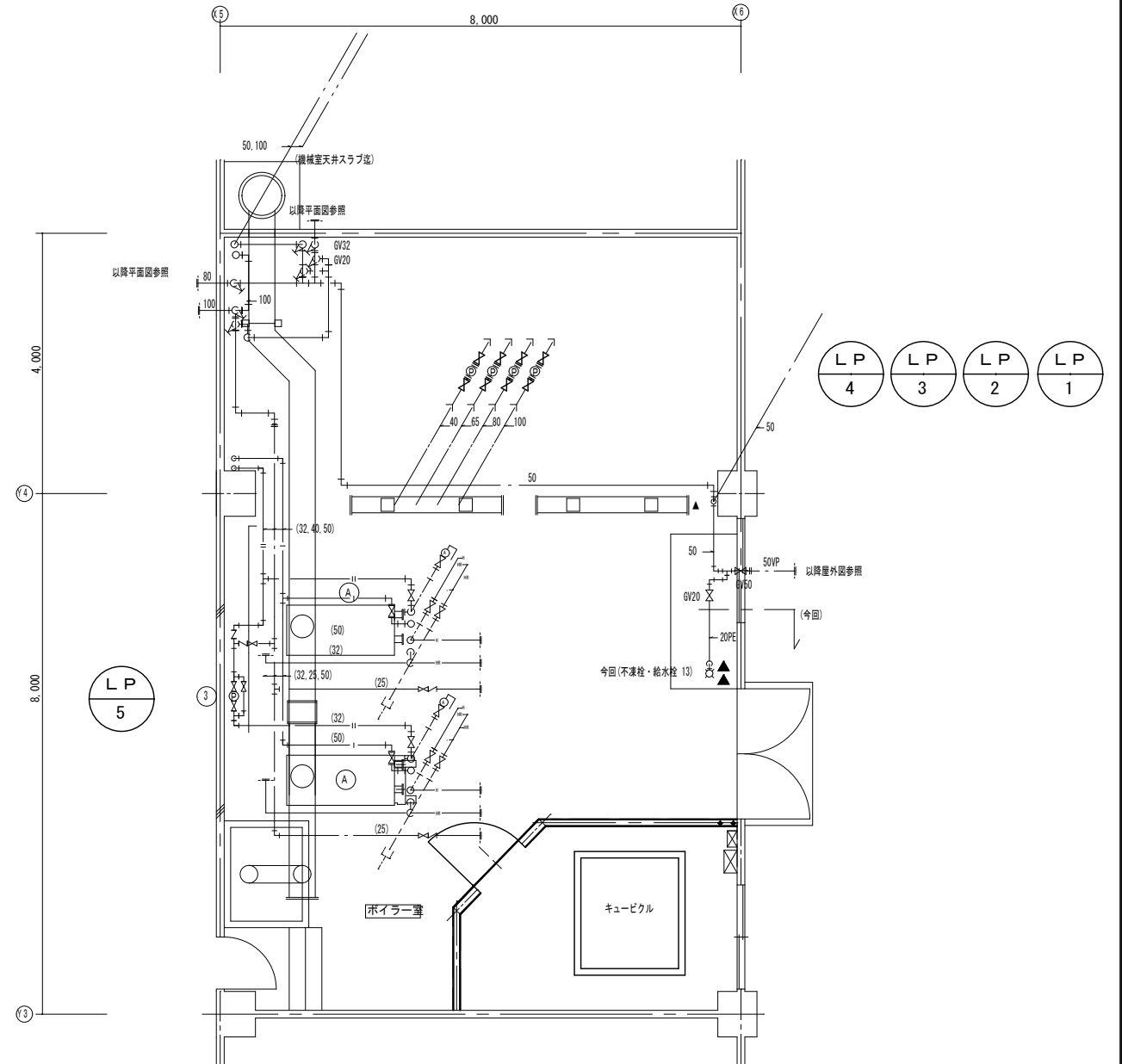
改修前



機器廻り配管配置 S1:50

機器表

記号	名称	仕様	数量	電源		備考
				相	電力(kw)	
LP-1	温水循環ポンプ	80φ 400L/min・9m 一般教室系統	1	3φ×200V	1.50	配線作業は端子箱取合いとする
LP-2	温水循環ポンプ	50φ 220L/min・9m 管理室系統	1	3φ×200V	0.75	配線作業は端子箱取合いとする
LP-3	温水循環ポンプ	40φ 140L/min・9m 特別教室系統	1	3φ×200V	0.40	配線作業は端子箱取合いとする
LP-4	温水循環ポンプ	32φ 50L/min・9m トイレ系統	1	3φ×200V	0.25	配線作業は端子箱取合いとする
LP-5	給湯循環ポンプ	32φ 137L/min・4.4m 給湯系統	1	3φ×200V	0.25	配線作業は端子箱取合いとする



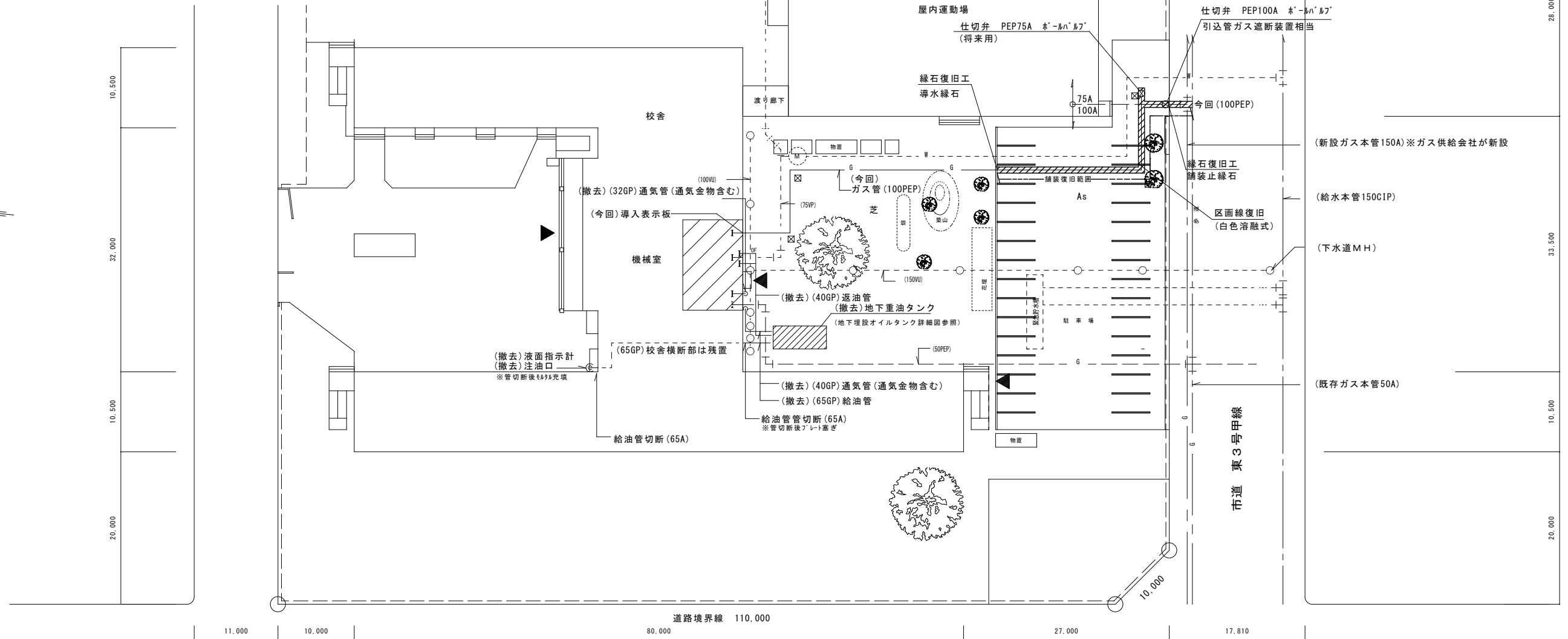
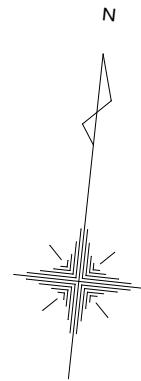
改修後

貫通部モルタル塞ぎ(床・壁)

記号	サイズ	数
◆	20φ × 150L	2

機械はつり凡例

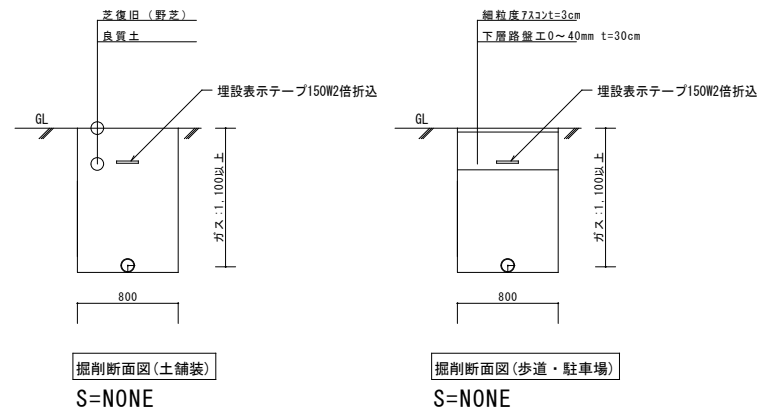
記号	サイズ	数
▲	50φ × 150L	2

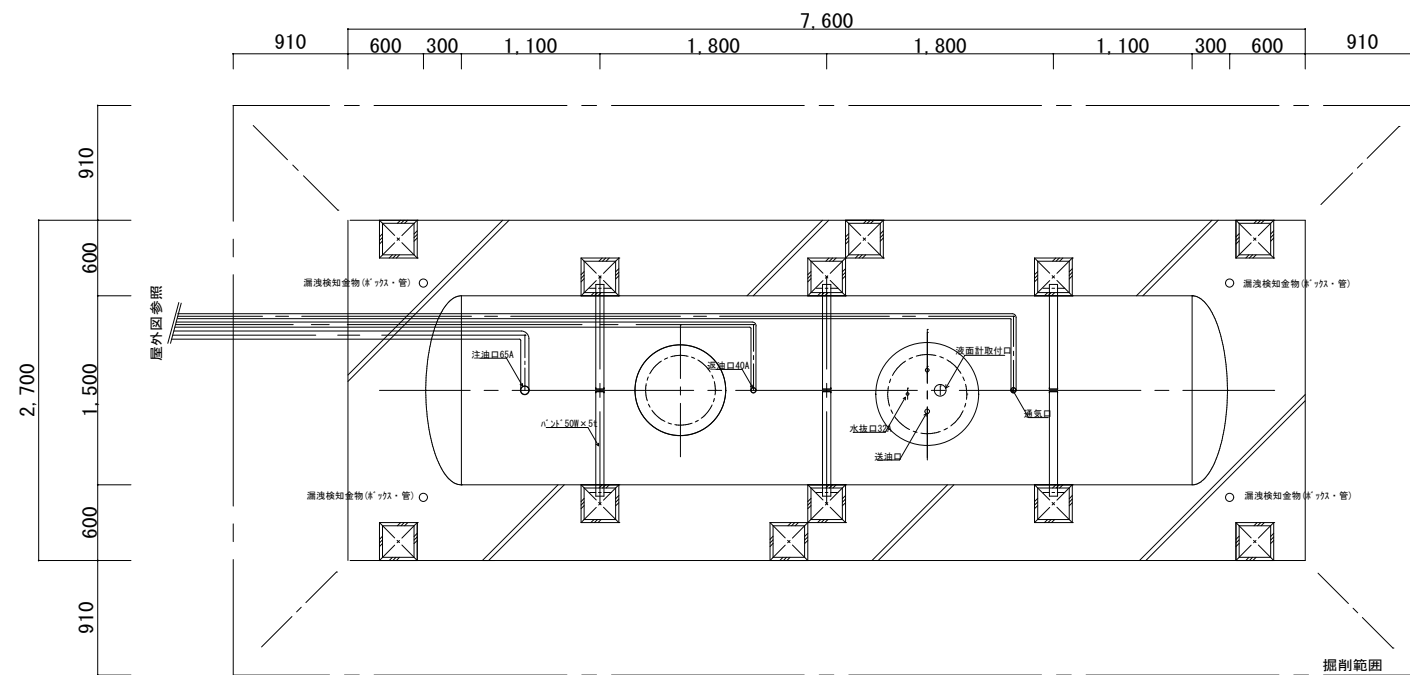


屋外配置図 S=1/300

凡例

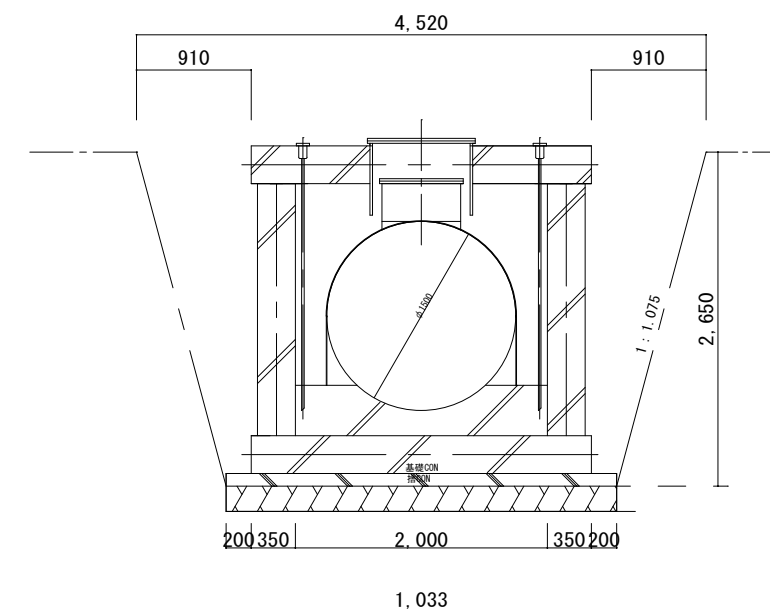
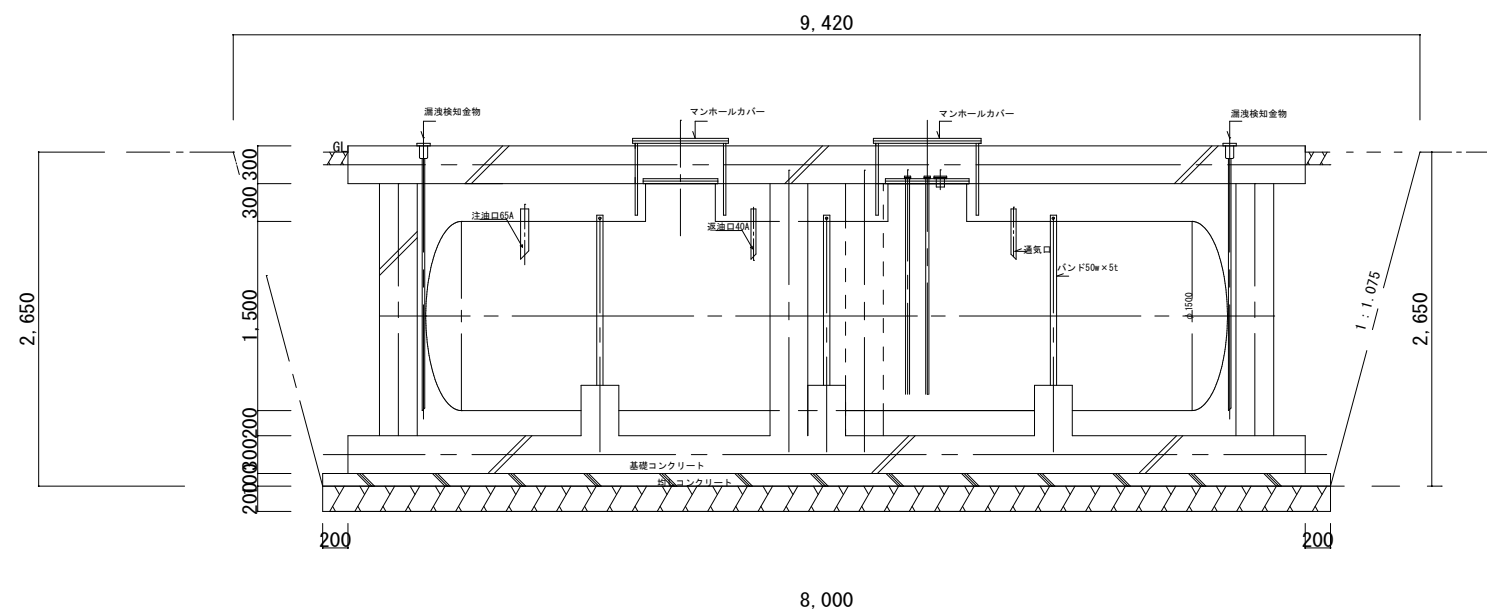
—G—	(今回)新設ガス引込管PEP100
--G--	既存ガス引込管PEP50
---W---	既存給水管VP75
(M)	量水器筐
(V)	汚水枡・汚水管VU150
(X)	(今回)地中埋設標(コンクリート製)

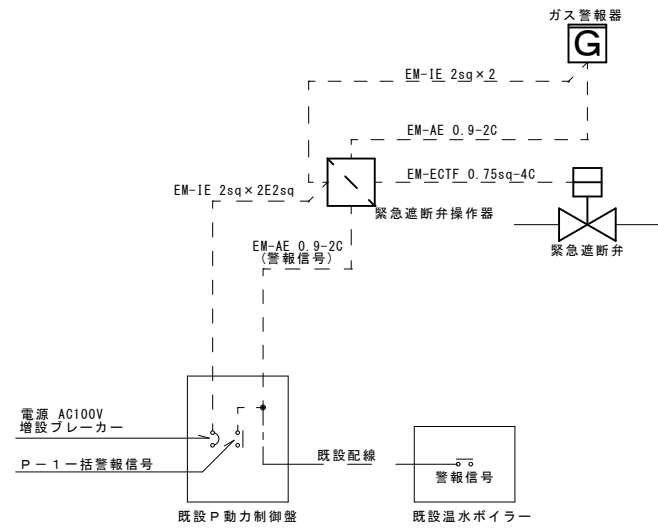




地下埋設オイルタンク	
形式	φ1500×5800L
材質	SS400
板厚	胴板:8t, 鏡板8t
外面	外部錆止め塗装 As7 ライマ-塗布
有効容量	10,000リットル
内容物	A重油

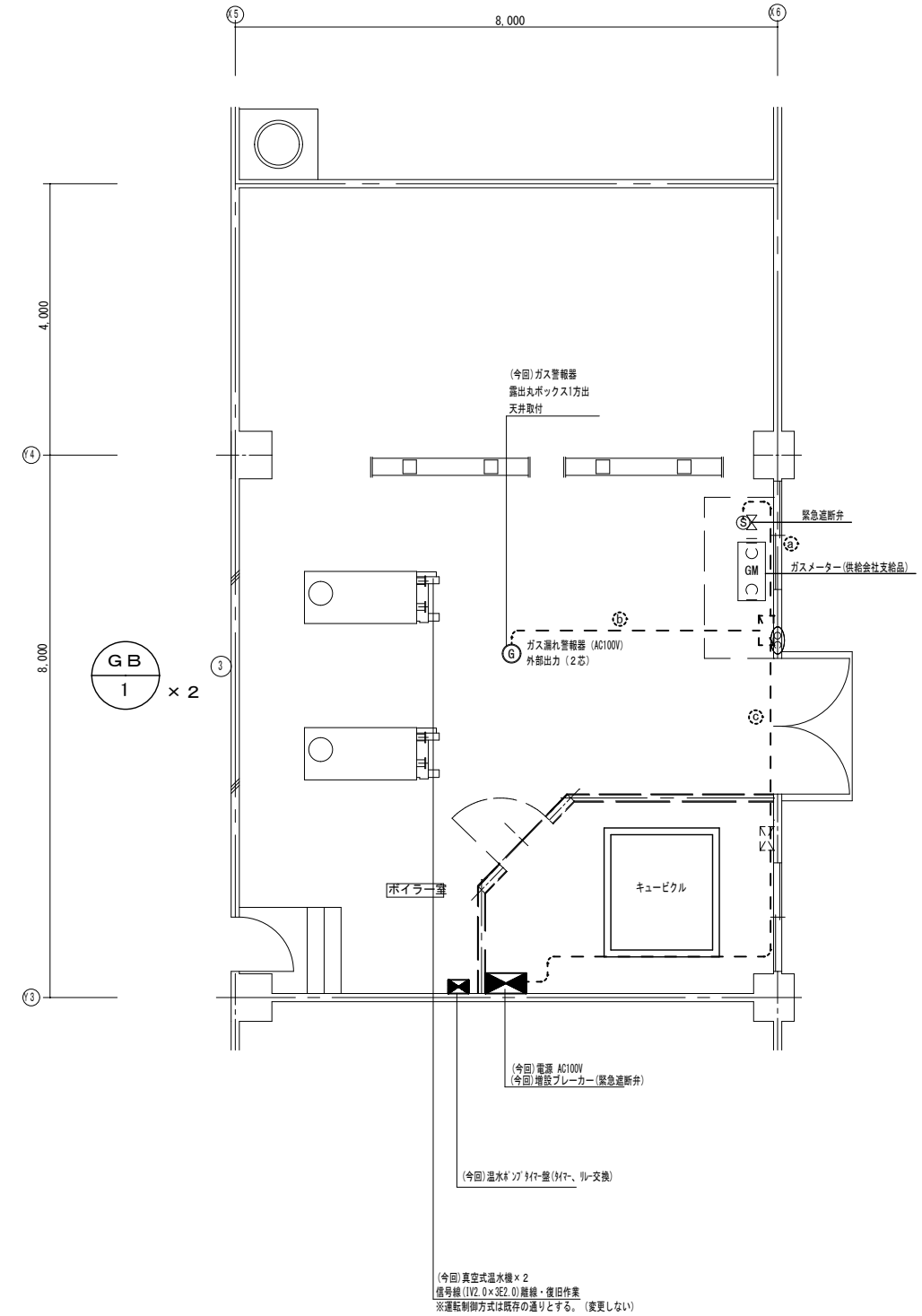
※残油処理後は槽内の中和処理を行い搬出すること。

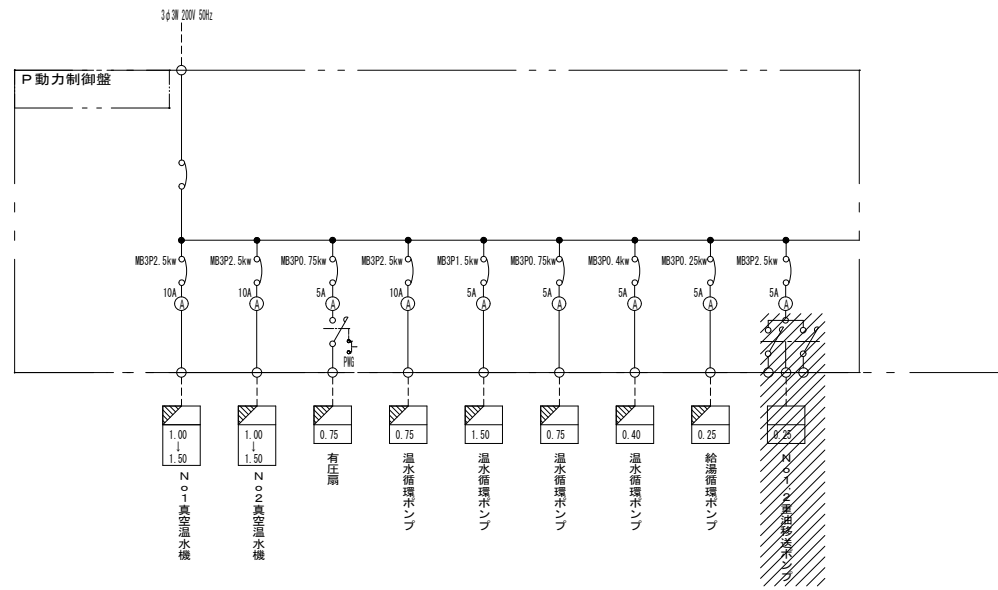




緊急遮断弁操作器 系統図

凡例表		
記号	名称	備考
	(既設) P 動力制御盤	
	(既設) 温水ポンプタイマー盤	
(a)	EM-ECTF0.75sq4C (E19)	緊急遮断弁
(b)	EM-IE2sq x 2 (E19) EM-AE0.9 2C (E19)	ガス警報器
(c)	EM-IE2sq x 2E2sq (E25) EM-AE0.9 2C (E25)	電源 警報

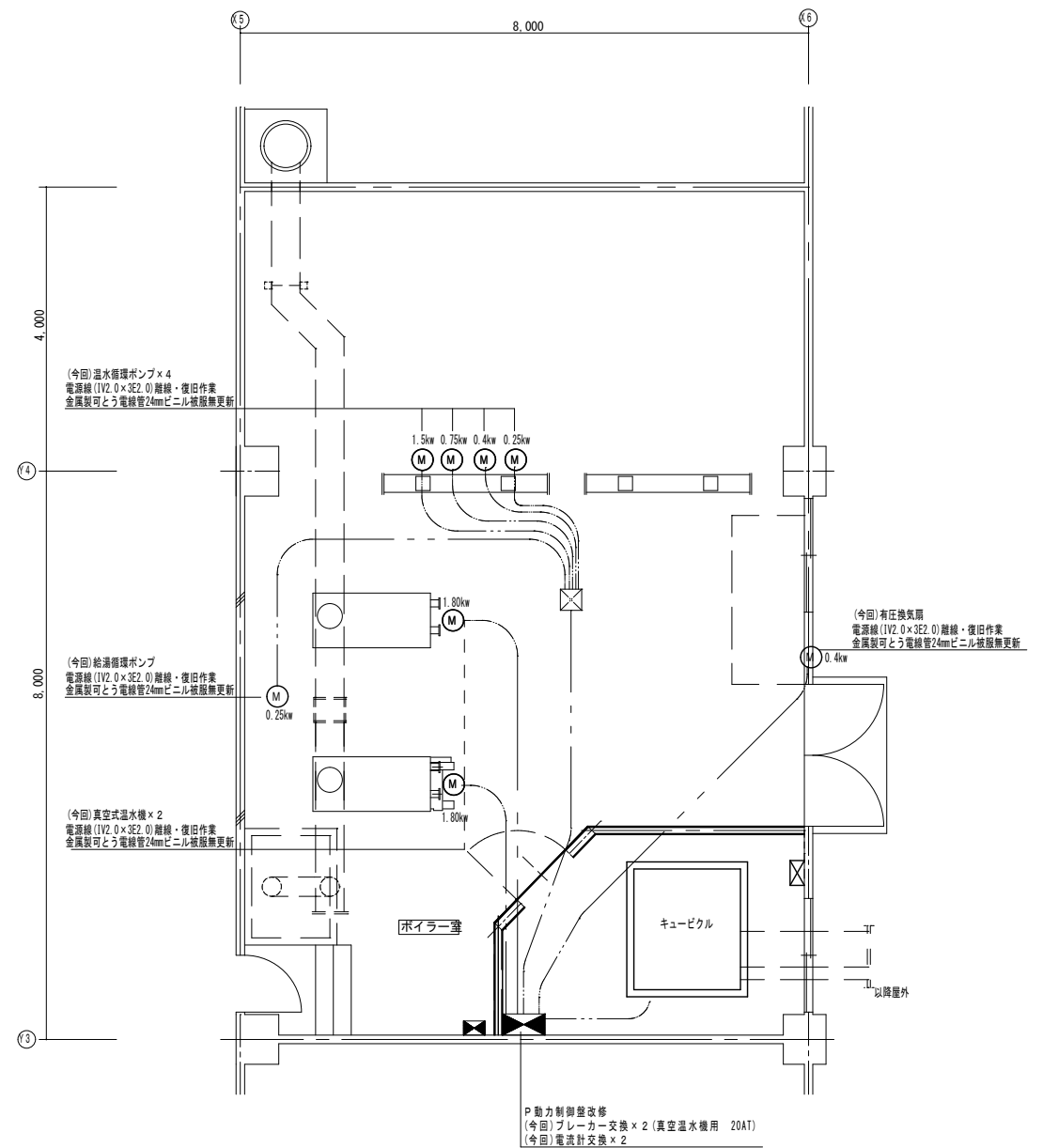
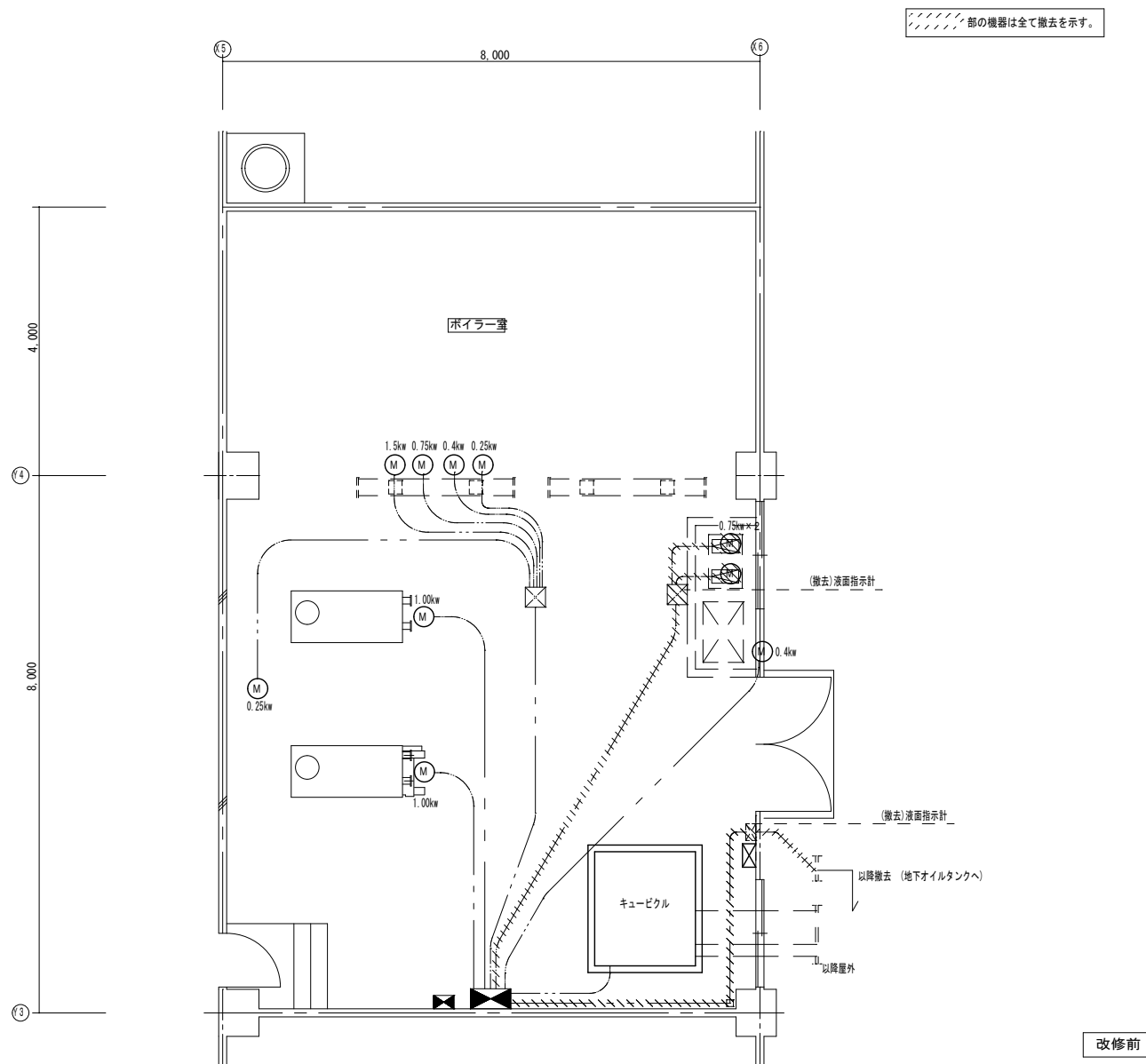


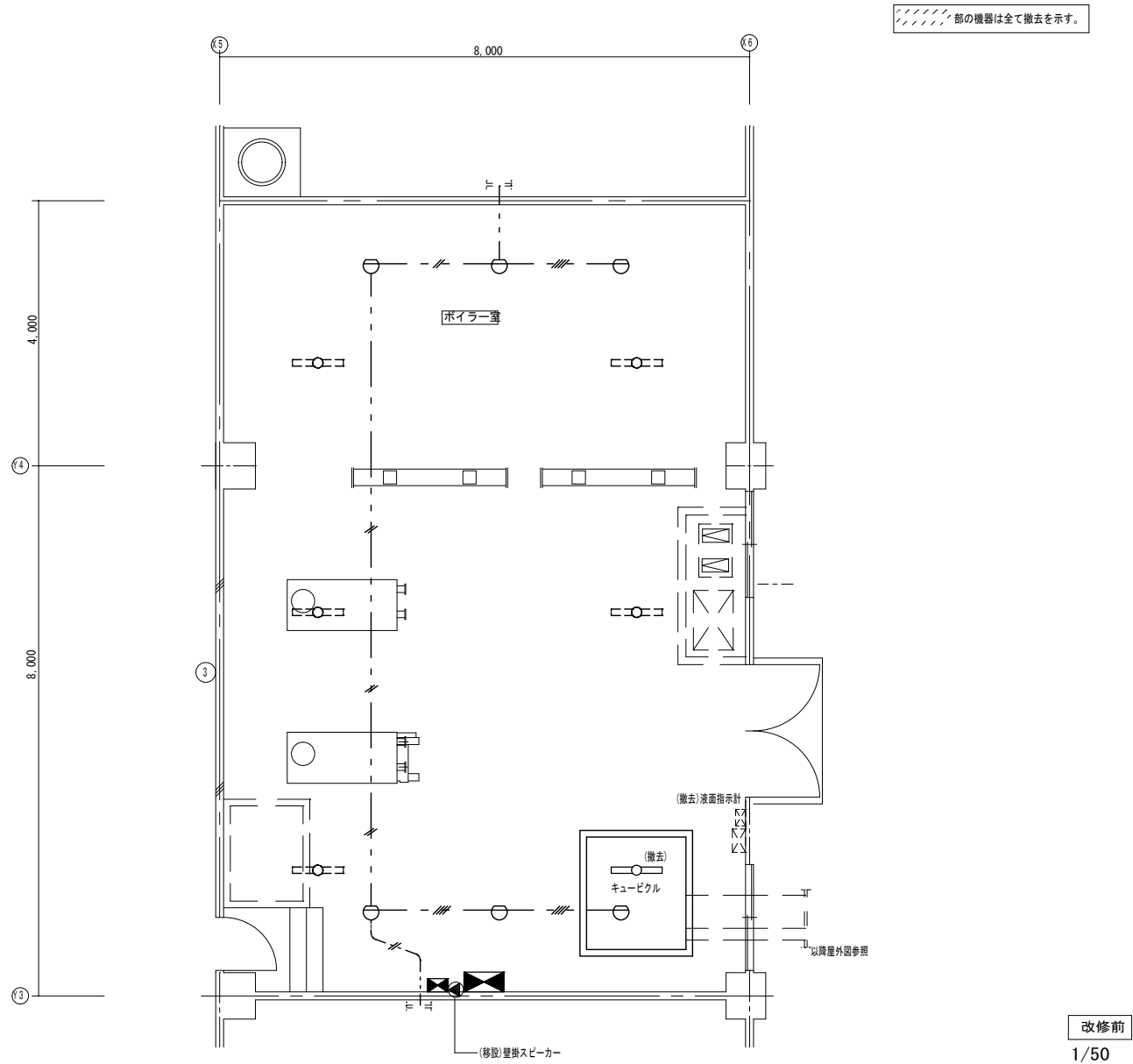


▨部は機器更新
▨部は撤去

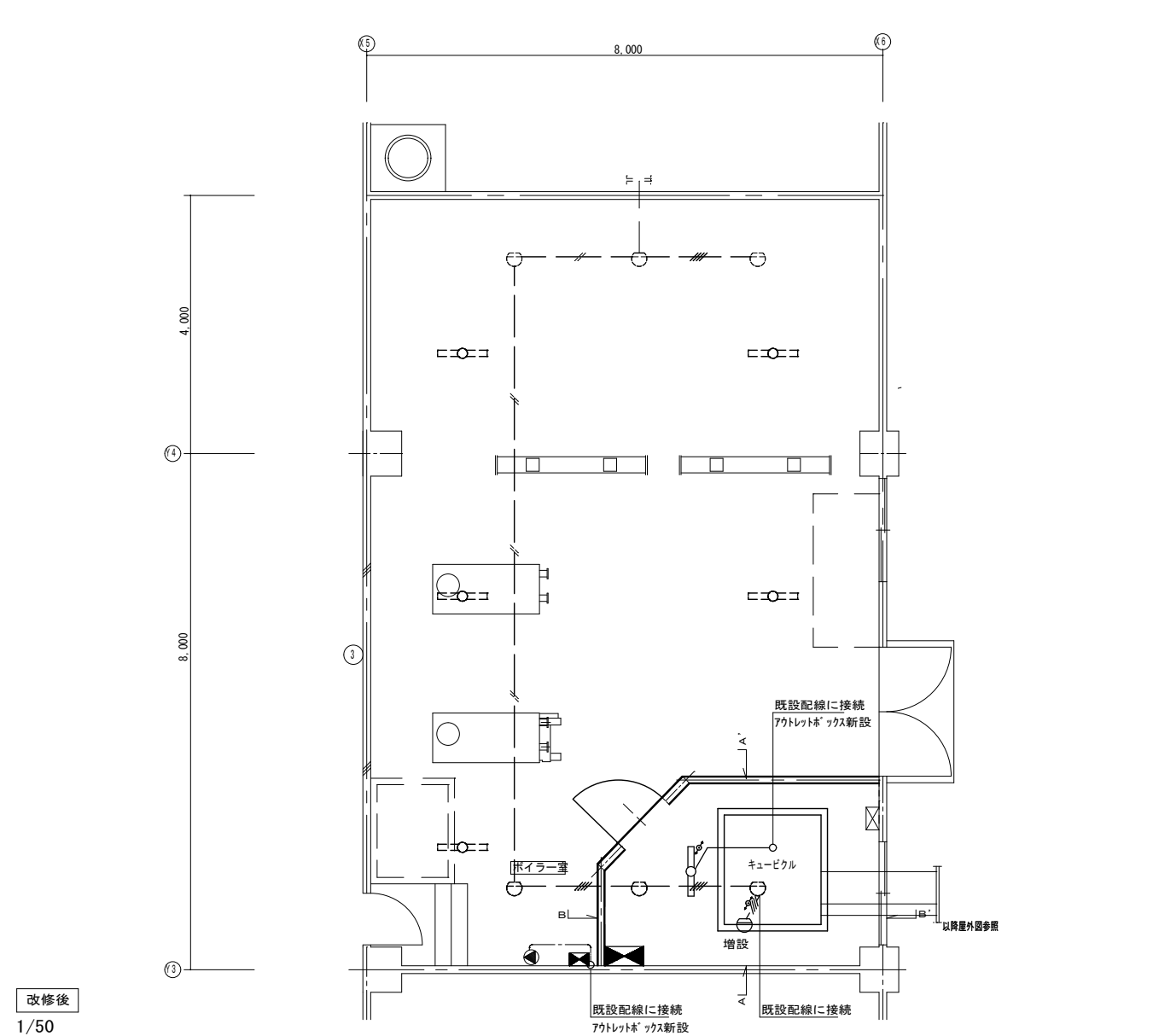
凡例表		
記号	名称	備考
Ⓜ	電動機類	
⊠	P 動力制御盤	
⊠	温水ポンプタイマー盤	

既設ボイラー、温水循環ポンプ
新設のため配線再接続の事。
既設配管配線は既存のままとする
既設P動力制御盤、1φ3Wの回路に
ブレーカーMCCB2P 50/20AT×1個
増設の事。(緊急遮断弁用M-08図参照)





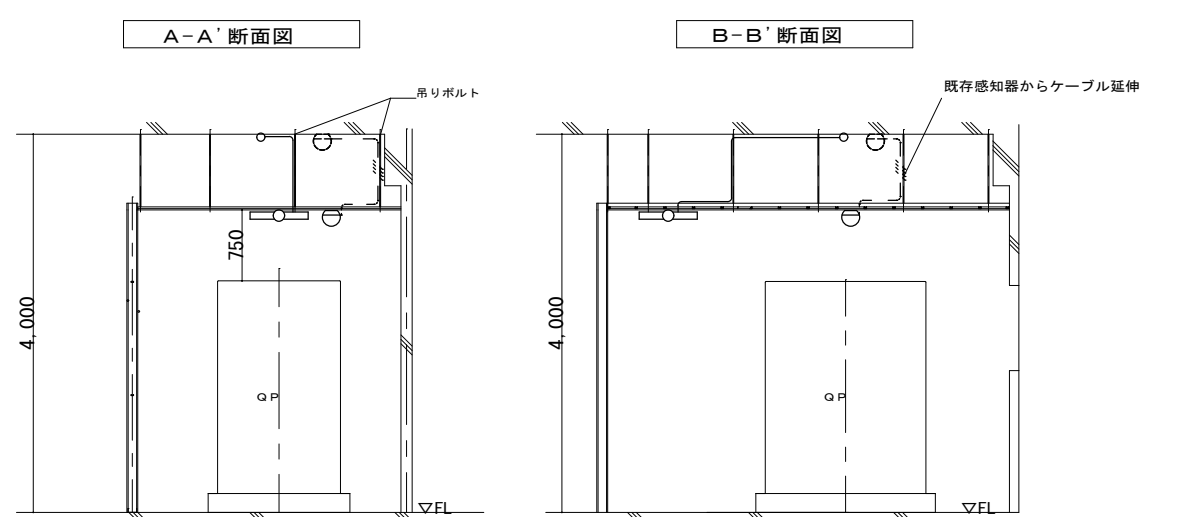
改修前
1/50

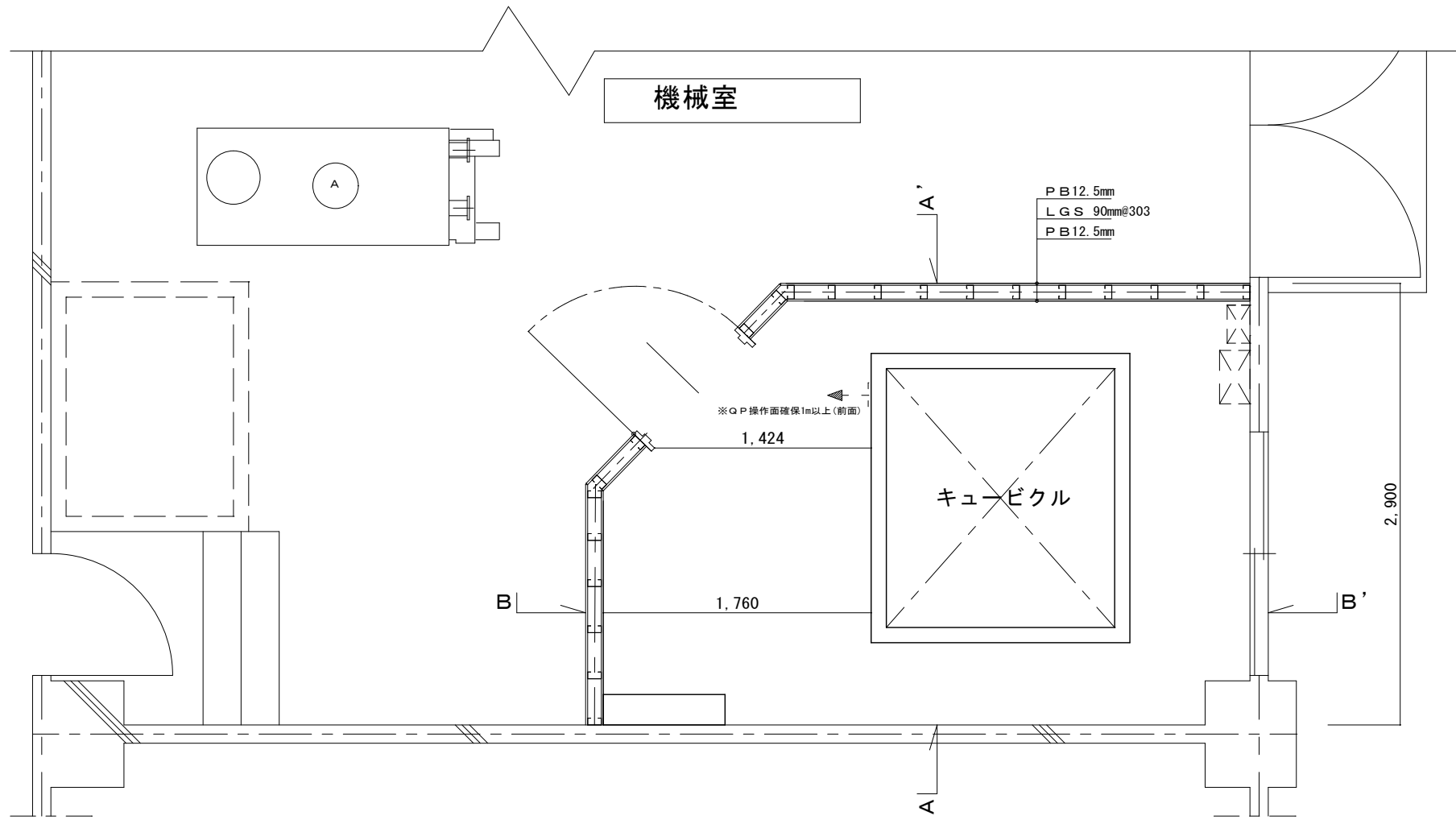


改修後
1/50

凡例表		
記号	名称	備考
○	(今回)照明器具	QP室内
□	既存照明器具	
○	(今回)スポット型感知器	QP室内
○	既存感知器類	
— / — / — / —	(今回)AE0.9-2C及び4C	
- - / - - / - - / - -	既存AE0.9-2C及び4C	
●	(移設)壁掛木製スピーカー	QP室内
— · — · — · — ·	(今回)HP1.2-3C	モール
○	(今回)アクトレイトボックス	
■	P動力制御盤	
■	温水ポンプタイマー盤	

改修後立面図
1/40





A-A' 断面図

B-B' 断面図

S D 片開扉

